

社会医療法人景岳会  
南大阪看護専門学校

# 創立50周年史

50th  
anniversary history

# ◆ 目 次 ◆

## 1章 記念誌発刊に寄せて

南大阪看護専門学校開学50周年に際して	学校長	小味渉智雄	3
南大阪看護専門学校創立50周年記念にあたって	法人会長	飛田 忠之	5
南大阪看護専門学校創立50周年記念誌発行にあたって	理事長	柿本祥太郎	6
創立50周年をお祝いして	病院長	福田 隆	7
創立50周年に寄せて	看護部長	渡邊美津江	9

### 【元学校関係者から】

看護学校創立50周年に当たっての思い出	元学校長	久保 正治	10
看護専門学校・平成13年ころの想い出	元学校長（現名誉院長）	宮越 一穂	12
激動の5年間～校舎改修～	元事務長	鶴羽 利男	13
「青天の霹靂」って本当にあるの？	元教務部長	棄原佐智子	15
看護基礎教育の土台の整った南大阪看護専門学校での教育を経験して	元教務主任	太田 和江	16

## 2章 沿革、歴史

内藤景岳氏 学院設立趣旨			19
沿革・歴史：竣工時写真（S55年3月）			19
校歌			21

## 3章 関係者からのメッセージ

### 【外部講師】

感謝	音楽講師	河合 清子	25
心身ともに健康な看護師さんに！	健康とレクリエーション講師	好光 栄智	26
三拍子揃った看護師に！	手話講師	藤原 清	27

### 【卒業生】

学生生活の思い出	第3期生	前岡富士子	29
3年間の全寮制で得た貴重な経験	第19期生	片山 直子	30
南大阪看護専門学校での学びを振り返って～私の看護の基盤となったもの～	第28期生	村上 巍	31
今自分の看護師像が構築された3年間を思い出して	第32期生	東郷 正弘	32
私の原点	第44期生	岡 優子	33

### 【現教員】

開校50周年を迎える時期に就任して	副学校長	薮本 初音	34
感謝	教務主任	高岡 操	35

母校の専任教員としての27年間を振り返って.....	専任教員 東浦 龍至	35
母校で看護教員になって.....	専任教員 高田 紳吾	36
看護教育に大切に思うこと.....	専任教員 木村 一美	36
創立50周年によせて.....	専任教員 名倉真砂美	37
南大阪看護専門学校で教員となって.....	専任教員 山内 雅子	37

#### 【職 員】

宮川みち子／鶴羽 真侑／辻川 秀美／加藤貴代美.....	38
------------------------------	----

#### 【在校生】

葛藤の日々を乗り越えて.....	第48期生	40
49期の学校生活～コロナに負けない看護学生～.....	第49期生	41
50期生として入学して出会いに感謝.....	第50期生	42

<b>4章 学校行事と思い出</b>	43
--------------------	----

#### 5章 資料

南大阪看護専門学校学則.....	55
校長・副校長・教務主任・事務長一覧.....	63
年度別卒業生数（3年課程）.....	64
編集後記・編集委員会.....	65



# 1章 記念誌発刊に寄せて





## 南大阪看護専門学校 開学50周年に際して

南大阪看護専門学校 校長  
**小味渕智雄**

本校は昭和48年（1973年）、南大阪高等看護学院（3年課程）として開設されて以来、令和5年（2023年）に開学50周年を迎えるにあたり、その経過を概説する。

昭和45年（1970年）、医学の急速な進歩、医療技術の多様化、専門化に伴い医療従事者の中でも看護職の重要性に配慮され、地域医療にも貢献する考えから、南大阪病院付属准看護学院を開設されたのが、南大阪病院創設者の内藤景岳氏である。

その後、昭和48年（1973年）、南大阪高等看護学院（3年課程）を開設、昭和51年（1976年）南大阪看護専門学校に改称、平成19年（2007年）に昭和59年（1984年）以来併設されていた准看護学科を廃止し今日に至っている。

本校の教育方針は、開設者内藤景岳氏による知育（技術専門教育の徹底）、德育（人間教育の充実）、体育（スポーツによる体力造り）を柱にしている。

先ず知育に関しては、看護専門学校のカリキュラムに沿って解剖生理学、病態生理学、薬理学等を南大阪病院の診療部、診療支援部、看護部に講師を依頼し、德育に関しては基礎分野の教育学、倫理学、社会学等は学外からそれぞれの専門講師を招き、徹底的な充実した教育を行っている。体育に関しては本校独自の科目として、健康とクリエーションを取り入れ、また音楽、手話も特徴のある科目として継続している。

開設初期には全寮制をとっていたが、この学生寮の取り壊しを含めて校舎全体の大改修が行われたのが平成21年（2009年）である。更に同年に学校のテニスコート、臨床検査技師学校の跡地に南大阪健診センター、透析センターを含む施設が完成し、現在は比較的コンパクトな効率的な外観を呈している。

校長は内藤景岳氏を初代とし、その後に福本圭士氏、久保正治氏、宮越一穂氏に次いで平成19年から小味渕智雄が担当し現在に至っている。

私は校長に就任して以来、専門性の高い教育の場として、学生が看護師を目指す広い知識と技術そして教養と礼節を身につけてもらうことを目標とし、また相手の心情をくみ取ることのできる人間性豊かな人材に成長することをこころがけてきた。そのためにできるだけ学生と顔を合わせ、日常のあいさつをはじめ簡単な会話を交わすなど積極的に声をかけるよ

うに努めてきた。

学校の三大式典である入学式、戴帽式、卒業式では、なるべく型にはまらず堅苦しさのないあいさつをするように配慮した。ある時は全国高校野球の入場式に行われる選手宣誓の一部を取り入れたり、大相撲の世界における努力鍛錬を話してみたりしたが、学生や保護者の皆さまが納得されたかどうか心配なこともあった。

この何年かは式辞の間に自作の短歌をはさむことが多く、その一部を紹介してみる。  
まずは入学式で、

「今日の日の入学先ずはおめでとう この晴れやかな顔いつまでも」

「同じ道を目指す仲間の良き縁 今日から三年続けていこう」

次に戴帽式で

「戴帽の、姿それぞれ美しく 今日の誓いを明日につなげて」

「ともし火のかなたに見えるその姿 明日のわが身と思えばうれし」

卒業式で

「これからは今まで学んだ実力を お返ししよう医療のために」

「忘れない皆で過ごした学び舎を 旅立つ後も誇りを持って」

近年、多くの4年制大学に看護部が開設され、本校を含む看護専門学校にとっては受験生の確保にも工夫を要する状況が生まれてきており、更に閉校を余儀なくされた学校も少なくない。しかしながら本校は、専門学校の特色を生かして臨床現場で即戦力として活動のできる人間性豊かな看護師の育成に努めていくことが、母体病院である南大阪病院に貢献し、開設者内藤景岳氏の意志に沿うものと考え努力を怠らないところである。



## 南大阪看護専門学校 創立50周年記念にあたって

社会医療法人景岳会 会長  
飛田 忠之

本年は南大阪看護専門学校が創立50周年を迎えることになりましたが、学校創立に多大のご尽力をかたむけられました、故内藤景岳先生をはじめ、歴代の校長、看護部顧問、各教務主任、そして教鞭をとつていただきました多くの講師の先生方に熱く御礼もうしあげます。

また母体の南大阪病院での看護学の臨地実習ができない、精神科、平成15年以降の小児科、産婦人科などでの臨地実習をひきうけていただきました多くの病院にたいしまして心から御礼もうしあげます。

本校は昭和45年4月に南大阪病院附属准看護学院として開校していますが、昭和48年4月には南大阪高等看護学院（3年課程全日制）が開校して、昭和51年10月に南大阪看護専門学校に改称され令和5年に開設以来50周年を迎えることになりました。

1期生（昭和48年入学）から48期生（令和2年入学）までの48年間の卒業生は約2,000名で、国家試験合格者は、前半は99.2%、後半は93.8%でした。多くの看護師が誕生し全国各地の看護の現場で活躍していることになります。

また南大阪病院附属准看護学院では3年間（昭和45年から昭和47年）で卒業者数は61名、専門課程第2部（昭和51年から昭和56年）では卒業生162名、看護専門学校高等課程准看護学科では昭和59年4月開科から平成19年3月閉科まで卒業生数1,007名を数えることができます。准看護学科は住之江区医師会と南大阪病院の間に入学定員や講義、運営方法について「3条」からなる覚書があったとのことです、小児科、産婦人科の撤退により平成19年で閉科となっています。当時の住之江区医師会会长や講師を引き受けさせていただいた先生方にも厚く御礼もうしあげます。

小生は平成3年4月に南大阪病院に赴任いたしましたが、まもなく外科看護学や最近は臨床外科看護総論の講義をおこない長きにわたって講師を務めさせていただきました。

講義が午後の眠い時間だったので半分くらいの学生が居眠りをしていたのは残念でしたが、看護学校の年中行事である4月の入学式、入学生歓迎会や戴帽式、秋に行われる体育祭、また毎年12月から始まる数回にわたる入試の面接、卒業式、卒業祝賀会などに参加させていただき元気溌剌な20代前半の若い学生さんと共に通の時間を持てたことは私の人生にとってかけがえのない経験だったとおもっています。

いつも南大阪学園歌を齊唱するとき自分がこの年になんでも感動を覚える言葉がいくつかあります。正しき技術を磨き、真理の道を求め、高き理想をかかげて、医療の道を貫かんという言葉です。今後ますます医療、看護の分野が発展しますが、卒業生の皆様も南大阪学園歌にうたわれているこの精神を引き継いで人生を送っていただきたいと切に希望いたします。



## 南大阪看護専門学校 創立50周年記念誌発行にあたって

社会医療法人景岳会 理事長  
柿本祥太郎

南大阪看護専門学校は令和5年（2023年）に創立50周年を迎えることとなりました。

この間、多くの関係者の皆様のご指導、ご協力をいただきましたことを深く感謝申し上げます。

さて本校の歴史を振り返ってみると、創設者である内藤景岳初代理事長が昭和26年（1951年）に“社会によろこばれ信頼される病院づくり”を理念に掲げて本校の母体病院である南大阪病院を設立されました。その後病院の発展とともに、慢性的な看護婦不足のため、有能で社会に貢献できる看護婦の育成を目的として昭和45年（1970年）に南大阪付属准看護学院を開設されました。

昭和48年（1973年）には南大阪高等看護学院（3年課程全日制）を設立、昭和51年（1976年）には第2部（2年課程定時制）を併設し南大阪看護専門学校と改称しました。

また昭和59年（1984年）には南大阪看護専門学校に准看護学科を併設し、第2部は廃止しました。さらに平成19年（2007年）には時代の流れとともに准看護学科を廃止するなど幾多の変遷を経て今日の南大阪看護専門学校（3年課程）となりました。

現在の南大阪看護専門学校の建物と敷地に関しては、平成20年（2008年）に着工した南大阪病院の現地建て替えによる新病院建設の影響により大幅な改築がなされました。

すなわち新病院建設のため、現在の病院本館部分にあった健診センター（南大阪ファンクス）の移転の必要が出てきました。そこで看護学校敷地内に健診センターと透析部門を同時に移転することを計画しました。

移転にあたり、看護学校敷地内の容積率を確保するため、使用されなくなった看護学校の西側6階部分（もとの臨床検査技師専門学校）の解体を行いました。同時に残された看護学校の老朽化に対する補修、特に空調設備と耐震化が大きな課題であり、空調設備に関しては新たなシステムを導入し、耐震に関しては8階建てであった建物の4階以上を解体することで耐震化を図りました。このような解体工事は建築会社にとっても初めての試みでしたが、これらの工事により容積率を生み出すことができ、健診センター、透析クリニックの建設が可能となり、現在の南大阪クリニックの姿となりました。しかしそのためには看護学校本体の敷地面積は縮小せざるを得なくなりましたが、看護教育に十分な設備は完備されています。

本校は、設立以来、知育、德育、体育を教育の3本柱として学生教育を行っており、社会に貢献できる優秀な看護師の育成に努めてまいりました。

現在、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、社会の在り方は大きく変わろうとしています。その中で命を守る最後の砦としての医療の重要性は増大しており、なかでも最も身近に患者さんに接し、献身的に看護する看護師の姿は多くの人々の感動を呼び、あらためて看護という仕事の素晴らしさ、重要性が大きくクローズアップされています。

医療技術の進歩により、今までできなかったような治療法が開発され、手術も年齢に関係なく安全に行われるようになりました。また新たな薬剤も次々に開発されています。

そのような状況の中、看護師の仕事もますます増大し、その内容も複雑、高度化しています。

また、日本は現在、世界一の高齢化社会ですが、高齢化は今後さらに進行し、施設や病院での高齢患者さんはますます増加すると思われます。

しかし今回の新型コロナウイルス感染症のパンデミックでも明らかになったように看護師の数はまだまだ不足しており、充分な看護ができる状況ではありません。

本校はこれまで多くの看護師を社会に送り出し、その要請に応えてまいりましたが、今後もさらに教育内容を充実させ、優秀で患者さんの気持ちに寄り添える看護師を育成し社会に貢献すべく努力する所存です。

最後に本校を支えていただいた関係者、関係機関、講師の皆様に心よりお礼を申し上げ、50周年のご挨拶といたします。



## 創立50周年をお祝いして

社会医療法人景岳会 南大阪病院 院長  
福田 隆

南大阪看護専門学校が創立50周年を迎えるにあたり、心から慶祝の意を表します。同じ医療法人に属するものとして、長年地域医療の発展に貢献されて来たその輝かしい歴史を誇りに思います。

南大阪病院は2021年に創立70周年を迎えていましたが、創設者であり初代院長でもある内藤景岳先生は、当時の医学雑誌に「全身これ燃える火の玉といった医界では異色の闘士」と紹介されるほどの熱血漢でした。残された記録からは、「医療の社会的使命と責任を痛感し、地域医療サービスに徹する決意」を持って、若くして南大阪病院を設立したとあります。内藤先生は病院運営により幅広い医療を地域に提供すると共に、日本の未来を見据えて優れた医療人の育成にも情熱を燃やされていました。「社会に貢献し得る有能な看護師を育成することは地域医療の奉仕に役立つという信念」から1970年に病院附属准看護学院を、1973年には南大阪高等看護学院（現・看護専門学校）を設立されました。なおその後1980年には南大阪臨床検査技師専門学校も設立されています。夢はかないませんでしたが、医科大学の創立も目指されていました。

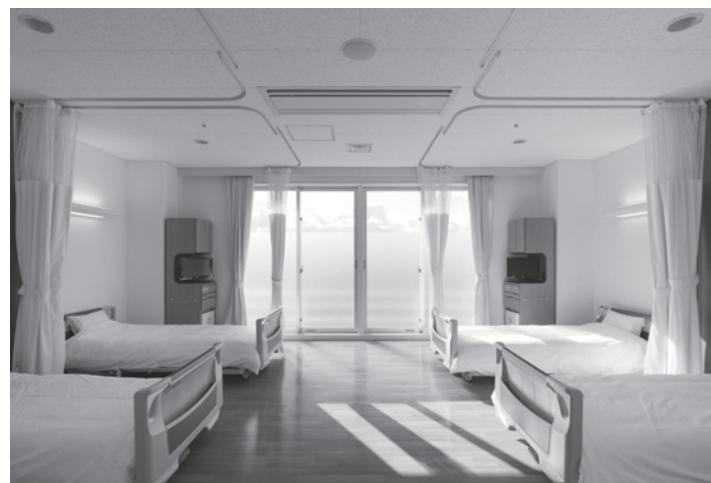
この様な創設者内藤景岳先生の医療の実践と優れた医療人の育成にかけた情熱を、我々は医療施設と教育機関として共に協力し合い、未来に向けて引き継いで行く責任があると思っています。

ところで、日本の看護師の数は人口1,000人当たり11.3人と世界11位ですが、病床100床当たりの看護師の数は、1位ノルウェーの490.7人や5位アメリカの427.6人に比し極めて少ない87.1人です。OECD加盟35ヵ国中30位と低い位置にあり、先進国の中でも現場の看護師数がかなり不足しているのが現状です。その上に今後日本は、超高齢化と共に労働者が絶対的に不足する生産年齢人口（15歳以上65歳未満）減少社会を迎えます。厚生労働省の発表によると、「団塊の世代」が後期高齢者（75歳）に達する2025年には看護職員の必要数が188万～202万人に達する一方で、その供給は175万～182万人にとどまるとされています。すなわち、今後医療体制がどのように変化しても看護師数がさらに不足することは明白です。また「人生100年時代」はいずれ現実に近くなり、2040年には85歳以上の超高齢者が100万人を突破すると言われています。その爆発的な医療ニーズの増大に対して、医療者・介護者数の不足は一層深刻化します。今十分な対策を立ておかないと、国民に十分な医療・介護が提供出来ない未来が待ち受けています。

看護師不足への対策として重要なことは、もちろん第1に看護師の新規育成と教育です。そのために看護専門学校が果たす社会的役割は今後も極めて大きいと考えます。そして第2には、看護師が安心してその職務に専念できるための社会的支援が必要です。特に看護師の主たる職場である病院・医院においてはその環境作りが急務と考えています。ライフスタイルの多様化に対応する労働時間システム、個々の職員が求めるキャリアデザインとライフ・ワークバランスを重視して各々に適したサポート体制作りなど、職場環境を整えることが必要です。南大阪病院は医師の働き方改革と共に、全ての医療者が働きやすい職場作りのための病院改革に力を入れています。また第3には、命を救う看護師業務への適切な財政的評価があります。今回のコロナ禍において、多数の新型コロナ患者さんに直接および間接的に対応する看護師の業務は過酷なものでした。しかし多くの看護師は、「患者さんのため」「地域の医療を守るために」に献身的

努力で医療現場を支えてくれました。国もその業務を評価して看護職員の待遇改善のために、2022年度の診療報酬改定において地域でコロナ医療など一定の役割を担う医療機関に勤務する看護職員を対象に、「看護職員待遇改善評価料」を新設しました。

医療者の不足に対して今後も多く対策が取り組まれて行くと思います。特に需要の高い看護師の未来は、ある意味大きな可能性に溢れているとも言えます。活動範囲は広がり、専門看護師・認定看護師など多くの道も開けています。長い歴史の中で多くの看護職員を輩出されて来た南大阪看護専門学校には、日本の明るい未来のためにも、今後も引き続き優れた看護職員を育成されることを願っています。





## 創立50周年に寄せて

社会医療法人景岳会 南大阪病院 看護部長  
渡邊美津江

南大阪看護専門学校創立50周年おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

半世紀にわたり看護師の養成にご尽力いただき、医療・看護の質向上に大いに貢献されましたことに感謝と敬意を表します。

今日、3年課程において約2,000人の卒業生を輩出し、今も多くの方が全国で活躍されていると聞いております。南大阪病院にも毎年多くの看護師に就職していただいている。現在も当院看護師の半数以上が貴校の卒業生であり、質の高い看護を提供し医療の現場を支えてくれています。その中で、看護管理に進む人、看護教育に携わる人、さらに認定看護師制度が発足後は卒業生の中から様々な認定看護師教育課程を受講し、専門分野において大いに実力を発揮しています。以前は結婚に伴い退職される人も多くいましたが、現在ではほとんどの人がワークライフバランスの中で仕事を継続し、育児休業後に復帰して、中堅・ベテラン看護師として強い戦力となっています。他病院に就職した卒業生の中にも看護管理者や専任教員、認定看護師として多くの人材が活躍しています。

2019年末からの新型コロナ感染症の流行により医療の現場も危機的状況となりました。

生活や仕事のスタイルも大きく変容、多くの仕事はリモートの活用やAI導入などへと変わってきましたが、看護師の仕事はそれに変わることは不可能です。今後AIに代替される仕事は多くあるだろうといわれていますが、なくならない仕事の上位に医療関係・看護職があります。直接患者さんに寄り添い、しっかりコミュニケーションをとって、状況に応じた看護が必要となるからです。新型コロナ感染症により、看護職の必要性があらためて大きく認識されました。

実は、私も南大阪看護専門学校の卒業生です。西成区に看護学校が新築移転後初めての入学生でした。広いテニスコートに桜の木が印象的でした。

当時は全寮制、学校の上部（5階から7階）が寮になっており、九州や四国など近畿以外からの学生がほとんどでした。看護学の授業や実習もさることながら、厳格な規則があり、規則正しい生活習慣を身に付けました。朝6時起床で春・夏・秋は病院前の公園までマラソン後、学年ごとにひとりずつ3分間スピーチがありました。その後当番は病院に立ち寄り、朝食のパンと牛乳を寮に持ち帰り配布するのです。冬はテニスコートで縄跳びがあり3分間スピーチです。唯一雨の日は6時の点呼だけでしたから、本来雨降りは嫌いなのですが、学生時代は雨の日がとても待ち遠しかったことが、今となれば懐かしく甦ります。

朝は8時30分から3階の教室に降りて授業、2年生からはほとんど実習でした。講義が休講になれば、南大阪病院で実習です。夜は実習日誌に追われる生活でしたが、看護の現場で十分に経験を積むことができました。そして、21時に点呼、1日の終了です。しかし、この経験が今の私にとっての生活の基盤となりました。

今後とも、医療の質を支える将来の看護職育成は責任も重く大変ですが、これからもさらに南大阪病院と協力し一緒に成長していきたいと願っています。

最後に、看護学校に携わる皆様に感謝するとともに、南大阪看護専門学校のさらなるご発展と、ご健勝並びに益々のご活躍をお祈り申し上げ、50周年記念のお祝いとさせていただきます。



### 看護学校創立50周年に当たっての思い出

元学校長

久保 正治

新しい就職先での出来事は、いつまでも長く記憶に残るものです。昭和52年3月、南大阪病院に耳鼻咽喉科の診療責任者とし着任した頃、手術見学に来ていた看護学生の名札を見て、珍しい難しい名字であったので確かめたところ、初めて聞く姓であり、出身を尋ねたら九州と教えてくれました。その名字と読み方はしっかりと覚えておりますが、未だに同姓の人と会った事はありません。国試を済ませ地元に帰り元気に活躍している事と思います。

南大阪看護専門学校には西日本各地からの受験生が多く九州、四国、山陰等遠くから集まり、全寮制も一つの理由かも分かりません。私が校長時代に、学生として在籍し卒業後、故郷に帰り結婚式に招かれた鹿児島からの学生は、鹿児島市内の公立病院に勤務しており、宴席では名産の芋焼酎をご馳走になりました。他の学生は宮崎県出身で在学中は温厚な性格で結婚式に招待されましたが、卒後地元の看護大学に進み看護師養成の学校で教育職として勤めております。地元に帰られても立派に活躍されており大変嬉しく、また頼もしく思います。

日本では人の名前には珍しい姓があるように、地名や駅名にも読むのに難解なものが少なくありません。例えば大阪市鶴見区の「放出（はなてん）」がその一つの例です。南大阪病院の所在地が東加賀屋で、近くの地下鉄の駅名が北加賀屋、住之江公園のあるところが南加賀屋と、何故加賀屋の地名が用いられるのか病院着任以来不思議に思っていましたら、江戸時代に大阪淡路町の両替商の加賀屋甚兵衛氏が当時海一面の加賀屋新田を開拓し、その末裔の方の尽力によって昭和に入り住宅地にする計画が進み、現在のように発展しました。南大阪病院内藤院長先生が昭和26年に今の地に開院し、加賀屋甚兵衛氏の子孫にあたる方が内科疾患で同病院を受診されて以来、院長先生と交友がある事を知り、東加賀屋地区の南大阪病院の存在意義と、地名の由来も判り、一層親しみを感じております。

看護学校も加賀屋には無関係で無く、戦後できた地下鉄四つ橋線を利用し北加賀屋で降りる場合、駅から学校まで西から東へ直線で時間を短縮し、学校へ行くことができます。学生や学校関係者は大いに助かっております。

或る日、看護学校学生の運動会が住之江公園で晴天のもと行われましたが、緑に囲まれ広々とした運動場があり、健康的な1日でした。私も借り物競争に借り出され、学生に負けじと半周を思い切り走りました。北田総婦長もにこやかに雰囲気を楽しみ競技に参加していました。このように近場に運動場があり、今は大阪市の市有地となり、必要に応じて有意義に利用できることは、江戸時代に大きな財力と、卓越した先見性をもって加賀屋新田を開拓し、今の住之江区にまで有効に開発して頂いた加賀屋甚兵衛氏と引き継がれた多くの末裔のご親族に心からの敬意を表します。

准看護学科で、笹山教務主任から聞いた優秀な学生さんを紹介します。年齢は45歳位で少し遅く入学されております。在学中、各科共良い成績で卒業し、検定試験も優秀な成績で、卒業後更に上の看護の勉強を目指し、当時は4年制の看護大学は少ない時代でしたが、四国で有数の看護大学を受験、合格されました。年齢にかかわらず看護の道を究めようと努力された貴重な話で、准看護学科にとっても誇れる歴史的事実であり、いつまでも看護学の発展の力になって頂くよう願うものです。

准看護学科は平成19年3月に閉科しましたが、開校以来数多くの即戦力となる卒業生を医療界に送り出してきました。南大阪看護専門学校准看護学科の実績は永久に残る事でしょう。

准看護学科学生は、卒後謝恩会を開き、住之江区医師会会长、副会長、理事長、校長、教務主任、教員らが招待を受けました。交通の便を考慮した会場で料理も良く、服装も和服姿が艶やかで、名前も失念するほどの変身ぶりでした。2年間働きながらの修学、そして検定試験と、卒業生にとっては達成感と開放感からの最高の交歓の場であったと思います。有難うございました。

最後に同じ看護を学ぶドイツの看護学校学生の学業以外の生活的一面を紹介します。私は、昭和39年3月から昭和40年10月の1年半の間、当時の西ドイツのザールランド大学病院に勤務しておりました。昭和39年の12月のクリスマスイブに、看護学校学生30人ほどが聖歌隊となって、凍てつく寒い夜空のもと、大きなモミの木に囲まれた病院の横の路上で、患者のためにフルートでクリスマスソングを聞かせる光景は、私にとってドイツの聖なる夜の貴重な思い出となっております。病院に残り退院できない患者さんの心に静かな安らぎを与えた事でしょう。

終わりに、建学50周年をお祝いし、益々のご発展を祈念いたします。





### 看護専門学校・平成13年ころの想い出

元校長（現社会医療法人景岳会 南大阪病院 名誉院長）

宮越 一穂

平成13年3月、濱田副院長から4月1日から看護学校の校長になってくれと要請された。それまで、久保正治副院長が長年、校長を務めておられ、高齢を理由にあげられたので、承知した。

まず最初の仕事は、4月1日の学校での校長就任の挨拶であった。

数日後には入学式があった。

南大阪病院看護専門学校は正看護師コース（3年制）と准看護師コース（2年制）があり、3年制学生を対象とした朝礼が朝8時30分から火曜日と金曜日の週2回、2年制学生には金曜日13時から昼礼として、校長が話すことになっていた。南大阪病院・循環器内科部長と兼務していたので、朝9時からは外来診察が待っており忙しかった。

朝礼・昼礼の話題は、当時、わたし自身が大阪医科大学の矢次正利教授（哲学）と太田富雄教授（脳神経科学）が中心になって2か月に1回、大学で開催されていた『メディカーメンデ』の会のメンバーだったので、そこで議論や、わたしが参加している循環器学会や内科学会での話題を多く話した。毎回、勉強の話ばかりでは堅苦しいかと思い、わたしの友人と何気ない日常で感じたことなども交えた。校長としての看護師さんへの期待は、1. 知識、2. 技術、3. こころ・やさしさ、4. コミュニケーション力、を持った看護師さんになってもらうことなので、どの話題を話す場合でも、それらを意識していた。

校長になって気遣ったことは、正看護学科の教務、准看護学科の教務、学校の事務との調整であった。当時は、南大阪臨床検査技師専門学校もあったので、その森田校長との調整もあった。南大阪病院にない診療科の講義、精神科の実習など、いくつかの病院に依頼して回った。わたし自身が大学院生のころに大阪空港検疫所に勤務していたので、検疫業務（衛生行政のあり方）を見学しに大阪検疫所での実習を行ったこともあった。

詳述はできないが、南大阪看護専門学校の入学試験の実施方法も大きく見直した。

大阪府の看護学校校長会があり、大阪府庁・看護課の増田課長から看護専門学校の有り方についていろいろ教えられた。日本全体の看護学校長会では常磐大学の上見幸司教授のご講演を拝聴した。当時、日本全体で看護大学が4～5校しかなく、看護大学の教員に学士が少なく文部省の大学制度に追いついていかなかったので、わたしから上見教授を医学哲学倫理学会の評議員に推挙し、学会の中で、看護師の研究の仕方、論文の書き方をご教授していただくよう制度化した。

南大阪看護専門学校の准看護学科は住之江区医師会と南大阪病院の協定のもとに設立された経緯があった。しかし、日本看護協会は准看護学科の廃止を、住之江区医師会はその協定による存続を、厚生労働省は法に従う立場にあった。南大阪病院の中で議論があったが、結局、わたしが住之江区医師会の理事会に出席し、当時の中島医師会長の横で、准看護学科の廃止について説明した。詳しい経緯は、准看護学科の記念誌を見ていただきたい。



## 激動の5年間～校舎改修～

元事務長

鶴羽 利男

南大阪看護専門学校の創立50周年をお慶び申し上げます。

私が健診センターから的人事異動で南大阪学園（南大阪看護専門学校と南大阪臨床検査技師専門学校の2つの学校の総称）に赴任したのは2002年（平成14年）でした。それからの5年間は臨床検査技師専門学校の廃校、准看護学科の閉鎖、看護学科の入学定員減（50人から40人に）、厚生労働省の学校指導調査、会計監査院による監査、学校校舎改修など南大阪看護専門学校にとって大きく変化する5年間でした。中でも校舎改修は、私が提案した事もあって強い思い入れがあります。

当時の校舎は昭和55年竣工の8階建ての阪神大震災後に制定された現在の耐震基準の2つ前の古い基準の建物でしたし、校舎の外壁の一部が中庭に剥がれ落ちて来る状態でしたので、大きな地震が来ないように、学生に被害が出ないようにと祈る毎日でした。

また、数人の学生が校舎5階から上の学生寮で生活していましたが、平成16年に寮母が退職することになった際に、校舎の学生寮を閉鎖（代わりに南大阪病院看護師寮の一部を学生寮にして）することになり、一安心したものです。

空調機も設置後30年近く経っていたため故障が頻発しており、いつ動かなくなってしまっておかしくない状態で「機器と配管を全て取り換えるしかない」と業者に言われていました。念のために取った見積金額は1億円超でため息しか出なかつたことをよく覚えています。

平成17年に厚生労働省が管轄する看護学校等の養成所指導調査が開始されました。これは指定基準に係る関係法令等の遵守状況の確認や問題なく教育されているかを調査し、指導する目的で毎年数校ずつ行われているのですが、その初年度に南大阪看護専門学校が選ばされました。

その時の指導調査で在宅実習室の不備を指摘されました。当時4階に畳が敷かれていた部屋（現情報処理室の場所）が在り、ベッドと浴槽を置いて在宅実習室としていましたが、浴槽に湯を張ることができず、担当官から「これでは在宅看護実習ができない。実際にお風呂に入れる在宅実習室にするように」との指導でした。当時の校舎では4階の在宅実習室への給漏設備を作ることは不可能でしたので、閉鎖する准看護学科の実習室（臨床検査学校棟1階）の一部に畳と湯を張れる浴室の在宅看護実習室を作るべく、病院に入りしていた建設会社の担当者と打ち合わせを行うことになりました。また、同時に南大阪病院の建て替え話が具体化していましたので、新しい病院の中に看護学校の施設全てを入れてもらえないかと当時の根本事務長と二人で法人に掛け合い、検討してもらうことになりました。ゼネコンの担当者と看護学校認可条件である独立した学校出入口、教室3室以上、看護実習室、在宅実習室、図書室、講堂、教務室等々の施設を配置できないか協議しましたが、どうしても面積が足らず新病院に入ることを諦めざるを得ませんでした。

やはり、准看護学科の実習室内に在宅実習室を作るしかないと建築会社の担当者と打ち合わせを重ね、ほぼ在宅実習室の案が纏まったころ、自宅で取っていた新聞の日曜版に『耐震基準を満たしていない4階建ての校舎の4階部分を取り壊し、3階建ての校舎にして、耐震基準を満たした小学校』の記事が記載されているのを見つけ、本校校舎でも不要な5階以上を取り除き、4階建ての校舎にすれば耐震基準を

## 元学校関係者から

満たすのではないかと思い、在宅実習室の打ち合わせに来ていた建設会社の担当者に「5階から上を取り壊して4階建ての校舎にすることはできるか」と聞いてみました。「無理、無理」と即答で否定され、ガッカリしたのをよく覚えています。

ところが、1週間程して建設会社の担当者が「5階から上を取り壊して4階建ての校舎にできるかどうかを社内で話をしたらできると言われた」と言ってきました。担当者に学校の図面を渡し、実現可能な場合は概算見積と耐震基準クリアの判断を依頼しました。

建設会社の担当者から“4階建てに改修することは可能”“耐震基準もクリア”“工事費は2億円弱（空調設備は住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業費補助金を利用）”との回答を得て、看護学校校舎を8階建てから4階建てに改修する案を法人に提出しました。なお、工事費については貯めていた施設費（1億円超）を充て、不足分を法人に出て貰うようお願い致しました。検査学校棟の跡地を健診センター等に利用できるからか、思ったよりスムーズに決裁が下り、校舎改修が行われ現在の校舎となりました。

また、意外なことから校舎改修に素敵なおまけが付いてきました。それは式典時や入試の面接時に講堂横の工場から聞こえて来る作業音が消えたこと。

校舎改修をした年の秋、大阪市南部にゲリラ豪雨が降り、校舎改修後の校舎西側駐輪場から一段土地の低い学校裏の佐久間工業さんへ雨水が流れ込み、作業場が水に浸ったことがあります。数日間仕事ができなくなったとのことで「雨水が流れ込まないよう何とかして欲しい」との連絡を受け、お詫びや対応策で何度も佐久間工業さんへ足を運びました。境界にブロックを置くなどの対策を取り、佐久間社長と懇意になったところで、入学式・卒業式・戴帽式の日程と時間帯、入試日程と面接時間帯をお伝えし、その時間帯だけでも佐久間工業さんから聞こえて来る金属音を止めていただけないかとお願いをしてみました。図々しいお願いにもかかわらず、佐久間社長は快く引き受けて下さり、以後式典と入試の面接は静かな環境ができるようになりました。当時の佐久間工業さんは隔週の土曜日を休みにしていたようですが、土曜日に実施の本校の入学試験日と出勤日が重なった場合は休みを振り替えていたとお聞きしました。本当に頭が下がる思いです。佐久間工業さんに改めて御礼を申し上げます。

最後に南大阪の基幹病院である南大阪病院、健診センター、透析センターの南大阪クリニック、社会福祉法人白寿会、そして50周年を迎えた南大阪看護専門学校の今後益々の発展を祈念致します。





## 「青天の霹靂」って本当にあるの？

元教務部長

棄原佐智子

私は平成15年4月から平成24年3月までの9年間、南大阪看護専門学校で教務部長として勤務させていただきました。当時は看護学科（三年課程）学年定員40名、准看護学科（二年課程）学年定員50名でした。精神看護学実習を除いては2課程とも南大阪病院で臨地実習ができているという恵まれた環境にありました。

ところが、就任1年目の冬、状況を一変させることが起こりました。南大阪病院が医師確保の問題から小児科と産婦人科を閉科せざるを得なくなり、従って看護学校も実習施設を捜して確保してほしいというものでした。その頃すでに少子化や分娩数の減少から、どの看護学校も母性看護学実習や小児看護学実習の展開は課題が多く、実習施設の確保も困難で行政も頭を悩ませている分野です。事の重大さは、一瞬で理解できました。「困っている場合ではない。法人、病院、学校が一致団結して困難を開拓していくしかない。」と冷静になって行動を開始しました。

久保校長と相談して学校の窓口を一つにして対応しました。まず、授業の講師を決めていただき一安心。私は府下の病院一覧表を片手に小児科・産婦人科のある病院の看護部長に電話しましたがすべて断られました。法人景岳会の飛田理事長、南大阪病院の宮越院長はじめ諸先生方、看護部長、師長はじめ多くの方々の協力で情報を集めることができ、いくつかの病院を訪問させていただきました。学校でも教務主任、実習調整者、専任教員が多忙な日常業務の中、連携して情報収集し総当たりしてくださいました。その中で、准看護学科は大正病院と大阪掖済会病院で実習を引き受けさせていただきました。

看護学科の方は、今思い出しても奇跡的としか言いようがない出会いでした。結果的には岸和田徳洲会病院、淀川キリスト教病院、愛染橋病院という小児科、産婦人科のある三病院でした。A病院はたまたま新卒看護師募集で来校された看護部長が看護教育に熱心で、実習生受け入れに前向きな発言を聞いて、校長と複数回訪問して依頼しました。法人と相談して奨学生の話も進めました。地元の卒業生が就職し、頑張っている姿も評価され実習生を引き受けさせていただきました。B病院のことは教務部長会議のグループワーク後の雑談で、ある方が「あそこは来年度から小児実習を断ったと言っていたよ。」と言われたのが耳に入りました。どこの学校や病院にたずねても「○○大学の実習予定が入っている」と断られていきました。私はあわてて「まだ空いていますかね？先生のお名前出していいですか」と聞き、早速校長と押しかけて依頼しました。

C病院は、法人や病院ともかかわりがありました。看護部長が私の母校の先輩であり、新卒時代に脳外科病棟で厳しく指導してもらった思い出がありました。勇気を振り絞ってお願いに行きました。「いろんな学校を受け入れているけど、あなたの所は大丈夫？」と念を押されました。私は「はい、大丈夫です」と即答していました。卒業生を送ってほしいとの意向もあり、何とか実習枠をこじあけていただきました。

こうした顛末で小児・母性看護学実習は平成16年度前半まで南大阪病院で行い、小児看護学実習は平成16年度後半より淀川キリスト教病院、平成17年度より岸和田徳洲会病院開始、母性看護学実習は平成16年度より岸和田徳洲会病院、平成18年度より愛染橋病院開始となりました。

振り返ってみると、全教職員は年間行事や日常業務、教育活動と併行してとにかく、頑張りました。実習指導をお願いした非常勤の助産師の皆様のご協力ありがとうございました。また、何よりも慣れない環境で無事故で学習を重ねた学生たちにも感謝したいと思います。



### 看護基礎教育の土台の整った 南大阪看護専門学校での教育を経験して

元教務主任  
太田 和江

南大阪看護専門学校が創立50年に際し、誠に喜ばしく、ここにお祝いを申し上げます。私は、平成21年12月から平成29年3月まで勤務させていただき、うち6年間教務主任を務めさせていただきました。

赴任当初、まだ南大阪病院は建て替えの前で、このような環境で果たして効果的な病院実習を行うことが可能なのかと驚いておりました。しかし、渡邊看護部長をはじめ卒業生が沢山働いておられ、実習にかかるわっていただけることと同時に教員にも卒業生が複数おり、こちらの意図が大変伝えやすい状況が整い、母体病院のありがたさを痛感いたしました。その後新病院へ建て替えられ、これを機に実習場の整備を当時実習調整者であった高岡教務主任とともに、病院へ相当強く要望させていただきました。学生が実習しやすい現在の状況に整えていただけたことは、南大阪病院の皆様の普段より看護基礎教育の重要性を理解していただけている賜物であると喜んでおります。

私が実際に専任教員として直接かかわることができたのは35期生から44期生までです。38期生は1年だけですが担任もさせていただきました。専門領域は在宅看護論ですので、自転車で近辺をいろいろ回らせていただきました。在宅療養をする方々の課題は、西成区の課題も相まって、療養者の尊厳を学ぶために最高の教育の場でした。下町ならではの地域連携も足掛かりをつけやすく、実習指導場面では数々の出会いから縁ができ、学生たちの学びのおこぼれをいつももらっていました。

南大阪の良さは、卒業生を中心に「看護のこころ」を強く教授できるスキルが高い教員がそろっています。実を申せば、複数の看護学校を経験している私は、この体制に最初、面喰らいました。「いったい何が行われているのだろう」と心底思ったのです。その謎は「卒業祝賀会」で解けました。学生たちの心のこもった演出と教員へのお礼の言葉、そして卒業後の謝恩会は本当に圧巻でした。学内では入学してきた1年生を看護学生として指導し、臨地実習では温かく見守る体制がありました。学生と教員との間に「信頼関係」という以上の愛情のこもった教育がなされている場面を何度も見かけ、南大阪イズムを痛感しました。看護学の知識を教授するのみならず、前述いたしました「看護のこころ」、人間味あふれる教育がここにありました。なぜか南大阪に入学する学生たちはみな優しいのです。そして真面目です。土台は既に持っています。その土台に教員が水をやり、やさしく肥料を継ぎ足し、時には副え木をし、大事に育てていました。未だに卒業生が教員を訪ねてくる光景を見かけますと、卒業生との縁の強さを再認識しています。

しかし、それらは客観的な評価として数値化や言語化しづらいものです。看護基礎教育に求められるものは、人間性も必要ですが、やはり国家試験合格できる知識の教授も当然必要です。教務主任になりました当時、以前の教育活動の記録等があまり残っておらず、規範等の基準も不明確な部分がありました。小味渕校長、棄原元副校长、宮崎元副校长に指示を仰ぎつつ、学則、内規の見直しや国家試験合格率を上げるためのカリキュラムの整理、授業評価など取り組ませていただきました。ほんの数年でしたが南大阪で教員として勤めることができたことは、看護教育とは何かを再考する機会となりました。現在も私は縁あって非常勤講師として南大阪で講義をする機会をいただいております。複数の学校で講義しておりますが、こちらの学校ではホームグラウンドのような安らぎを感じております。

最後になりましたが、南大阪看護専門学校のご発展と関係者の皆様のご健勝および卒業生のますますのご活躍を祈念いたします。

## 2章 沿革、歴史



## 内藤景岳氏 学院設立趣旨



本校の設立母体である医療法人景岳会の創設者で理事長の内藤景岳先生は、「社会によるこばれ信頼される病院づくり」を目的に、昭和26年5月1日総合病院南大阪病院を開設。本校は南大阪病院に必要な看護職を養成するために、昭和45年4月に開校した。当初は、准看護婦養成所として出発したが、3年後には3年課程の看護婦養成を開始した。その後2年課程定時制（進学コース）の併設もあったが、時代の趨勢により、平成19年度から3年課程看護学科（定員40名）のみの看護専門学校となった。

本校創立者の内藤景岳先生の「知育、德育、体育」を教育指針に、豊かな人間性を備えた看護師の育成を目指している。

### 沿革・歴史：竣工時写真（S55年3月）

昭和45年3月	『南大阪病院附属准看護学院』を准看護婦養成所として指定
昭和45年4月	『南大阪病院附属准看護学院』を開校 修業年限2年、定員20名、全寮制 大阪市住吉区東加賀屋1丁目60番地 南大阪病院10病棟仮校舎で授業を開始
昭和46年9月	南大阪病院管理棟増築工事完成により4階に移転
昭和46年10月	『南大阪病院附属准看護学院』を設置認可 ※各種学校として認可
昭和48年2月	『南大阪高等看護学院』を看護婦養成所として指定
昭和48年4月	『南大阪高等看護学院』3年課程を開校 修業年限3年(全日制)、定員25名、全寮制 校舎は、従来の施設に器材室等一部を増築
昭和49年3月	『南大阪病院附属准看護学院』を廃校
昭和51年6月	【3期 61名】 大阪市西成区南津守町7丁目68番地に移転 現在の住居表示 大阪市西成区南津守7丁目14番31号 (学則変更年月日は昭和51年9月1日付)
昭和51年9月	『南大阪高等看護学院』2年課程(定時制)を設置 修業年限3年、定員25名

<b>昭和51年10月</b>	『南大阪看護専門学校』看護専門課程の設置認可 ※学校教育法の一部改正により専修学校となり、専門課程を有する学校を専門学校と称することとなった為、校名を『南大阪看護専門学校』に改め、第一部(3年課程)、第二部(2年課程定時制)とした この為、改めて設置認可を得ることとなった
<b>昭和55年2月</b>	同敷地内に新校舎を竣工
<b>昭和55年4月</b>	新校舎竣工に伴い3年課程、2年課程定時制共定員を50名に変更 併設校『南大阪臨床検査技師専門学校』臨床検査専門課程臨床検査技師養成学科を開校 南大阪看護専門学校、南大阪臨床検査技師専門学校を総称し、『南大阪学園』と呼称する
<b>昭和59年2月</b>	『南大阪准看護学院』を准看護婦養成所として指定 准看護婦課程 修業年限2年、定員50名
<b>昭和59年3月</b>	『南大阪看護専門学校』看護高等課程准看護学科の設置認可 修業年限・定員 同上 『南大阪看護専門学校』2年課程定時制を設置廃止 【6期 163名】
<b>平成17年3月</b>	併設校『南大阪臨床検査技師専門学校』を廃校 【23期 699名】
<b>平成18年4月</b>	『南大阪看護専門学校』看護専門課程看護学科の定員を40名に改める
<b>平成19年3月</b>	『南大阪看護専門学校』看護高等課程准看護学科を設置廃止 【22期 1,007名】
<b>平成21年8月</b>	校舎改修







### 3章 関係者からのメッセージ



## 感謝

音楽講師

河合 清子

名門「南大阪看護専門学校」に一歩足を踏み入れますと、お会いする皆様から、「こんにちは！」と笑顔でご挨拶、それからすぐに「何かお手伝いしましょうか」とお声がけくださいます。先生方は、授業や生徒指導など激務であられますのに、いつも惜しみなく、全力でサポートしてくださいます。

そして生徒の皆様は、先生方をお手本に、ハードな実習の日々も廊下で会うと、元気にご挨拶、こちらがプリントなど沢山持っていると「お持ちしましょうか」と、気遣う言葉をくださるのであります。

お陰様で30年間、ずっと幸せな想いで授業をさせて頂きました。常に人の役に立つこと、寄り添うことを伝えてこられた先生方、皆様に、毎回感銘を受けました。そして、もっと人として磨かなければと、気づかされる日々でした。

教務の先生方、事務部の方、清掃部の方、皆様に、心から感謝申し上げます。皆様の尊い技術とお心の元で、これからも沢山の方が学ばれますことを、願っております。私も、音楽で学生生活が少しでも豊かになって頂けます様、努めて参ります。改めまして、創立50周年、おめでとうございます。



# 心身ともに健康な看護師さんに！

健康とレクリエーション講師

好光 栄智

授業の目標及び概要、体力を維持増進し、健全な心身の育成を目指す。レクリエーションの意義を理解し企画・指導方法を考えるグループダイナミックスを体験することで、強調・協働・指導制を発揮する。

最初の授業では、自己紹介のレクリエーションゲームをし、緑・青・黄・黒・赤の5グループに分けて、ソフトバレーボールから始めました。コートは、ビニールテープで2コート、ネットは点滴治療の支柱を立て、ロープを張りました。

2チーム、2チームが試合、1チームが、審判のローテーションで、進めました。バドミントン・ポートボール・フットサル・ドッジボール等々。

数年後、卒業記念品で、現在のネットセットを贈呈して頂きました。大変、嬉しく思いました。

私は小学校の教諭を38年間、主に5・6年生を担当し、生活指導と保健体育に携わってきました。小学校の授業時間は45分、中学・高等学校は、50分。それが看護専門学校では、90分に。1回生にとっては、大変なことだと思います。

生活、学習習慣で大切なこととして、『いのちをはぐくむ』 \* 眠る。就寝時刻が遅くなったり、不規則になったり、睡眠不足にならないように注意しましょう。 \* 食べる。規則正しい食生活が身につくようにしましょう。特に朝食を抜いたり、偏食にならないように注意しましょう。 \* 運動する。体力を養うため、体を動かす習慣をつけましょう。

『自立心・自律性をはぐくむ』 『社会性をはぐくむ』

このようなことは、学生にとっても、看護師さんになっても大切だと思い、話しました。

『レクリエーション』 レクの、リ、クリエイト、は、疲れた心や体をもとに戻すことです。

それで、【健康とレクリエーション】の授業を金曜日の4時間、週の最後にしていただきました。最終授業の後のアンケートに、後期もあればいいのにと書いている学生もいました。



## 三拍子揃った看護師に！

手話講師

藤原 清

大阪には、30以上の看護教育を専門にする学校があります。本年度創立50周年を迎えた本校、南大阪看護専門学校もその中のひとつであり、その教育の一端を担わせていただく者として祝意を表させていただきます。

おめでとうございます。

私が要請されて本校の学生のみなさんに手話を指導はじめから、十年が過ぎ去りました。

看護の専門学校で、なぜ手話を学習するのか、授業中にも申しましたが、改めて英語を学ぶのと同様です。グローバル化の現代、病院にも英語を母国語にする患者が来られます。この時のため、少しでも多く英語に慣れておいてほしい、という学校の方針があると私は思っております。このことは、ドイツ語やフランス語、中国語など他の言語についても申せます。

そして、病院には日本人でも赤ちゃんから高齢者、そして目や足、耳が不自由な患者も来られます。目や足が不自由なら外見でそれとわかります。しかし、耳が不自由だとわかりにくいです。耳が聴こえないということは耳から情報が入ってこず、行動に制限を受けやすくなります。例えばテレビの声、家族の声、駅の案内放送などいろいろです。中でも病院でのそれは、命に係わる問題です。順番を呼ばれてもわからず、医師や看護師の説明もわかりにくい。

耳が聴こえない人（聴力障がい者、あるいはろう者）のコミュニケーション手段には、普通、書いてやりとりする筆談、話し手の口の動きを読み取る読話、そして手話です。読話は、場所の明るさや距離の制約もあり、誰でもいつでもという訳にはいきません。ですから、ツールとして一般的なのは、やはり手話です。私の授業では手話実技の他に、ろう教育やろう者の生活、心理など福祉に関わる分野についても学んでもらいました。

こうして卒立っていかれた学生たちが、今、あちこちの病院や施設で頑張っておられるだろうと思うと、私の大きな喜びでもあります。

最後の授業が終わって感想文を書いてもらいました。次はその一部です。

- ・手話を初めて習いました。初めは不安だったが、楽しく受けられて日常で使う手話や指文字ができるようになりました。「何が好きですか？」とか、「身長はいくら？」という先生の質問に、手話で返事をするのは難しかったけど、できた時は嬉しくもっと学びたかった。（Hさん）
- ・少しずつだが手話を見て理解できるようになり、アルバイト先で耳が聴こえないお客様が来店されたら手話を使ってみたい。（Iさん）
- ・普通では経験できないことを、看護の授業として受けさせてもらい、貴重な経験だった。（Hさん）
- ・小学校以来の手話の授業を楽しく学べました。「四季の歌」すごく心に残っています。（Mさん）
- ・看護師になったら、手話を使う機会も増えると思うので、今回学んだことを忘れずに新しいことを学んでいきたい。（Kさん）

私も今後、いつどこで体調を崩し入院するかもわかりません。その時には、多くのろう者が手話を学ばれた卒業生のみなさんのお世話になることもあるでしょう。

毎年度、春の入学式や戴帽式、そして卒業式の他、卒業生主催の謝恩会に呼んでいただきました。卒業式では、共に「螢の光」を歌うのが楽しみでもありました。

冒頭にも記したように、30以上の看護専門学校の中で、カリキュラムに手話を取り入れているところは少なく、南大阪看護専門学校の特色のひとつだと思います。確かな技術と優しい心を持ち手話をわかる三拍子揃った素敵な看護師が育つことを期待しています。

改めて創立50周年を祝し、南大阪看護専門学校の今後のご発展をお祈りします。



## 学生生活の思い出

第3期生 前岡富士子

私が南大阪看護学院に入学したのは1975年（昭和50年）4月です。1年生の頃、学校は南大阪病院の管理棟にあり、朝食から夕食まで半日病院内で過ごしていました。そのため、病院長、総婦長（当時）、各病棟の主任看護婦（当時の病棟責任者）を始めとした職員、患者さんの視線を常に感じ、強い緊張感がありました。講義も病院長はじめ医師や看護婦（当時）、事務職員の方々が多く担当されていましたが、病院内での印象と違い、ユーモアがあり熱い方が多かったと思います。それから、毎日の病院朝礼は、特に緊張しました。職員の皆さんと一緒にいたし、内藤景岳病院長（当時）から学生に対して、校則の男女交際禁止、アルバイト禁止、寮の門限厳守、卒業後の勤務などについての訓示があり、それを重く感じていました。

2年生から学校名が「南大阪看護専門学校」になり、所在地も現在の場所に変わりましたが、古い事務所か工場のような校舎に学生全員で各自の机を運んだり、大掃除をしたりと引っ越し作業は大変でした。しかし、病院と切り離されましたので、緊張するのは病院での朝礼と臨床実習の時くらいになり、学校や寮にいる間は緊張感や重圧感から解放されました。

全寮制だったので寮の思い出も忘れられません。寮では2人一部屋。月～土までは朝6時起床、集会室に集合してナイチンゲール誓詞を皆で唱和、週番からの連絡等聞いて解散。職員食堂で朝食を摂り、8時30分病院朝礼参加。9時から17時まで授業。夕食も職員食堂なので18時30分くらいまでに終え、帰寮。門限が21時なのでそれまでに銭湯や買い物を済ませるという生活でした。特に門限は1分でも遅れると教務に報告され、罰則がありましたので、外出していた人が、北加賀屋の駅から必死で走ってきて門限ぎりぎりで玄関に飛び込むということは多々ありました。寮の思い出は、2019年3月鹿児島県霧島の個人所有の別荘で開催された同期会で、料理など自分たちでいろいろ作り食べて話して、布団を並べて寝て、久々に寮に戻った感じだと皆懐かしがって盛り上がったことで、40年以上経て、いろいろあった3年間の寮生活が楽しい思い出に変わっていることを感じました。

3年生当時の臨床実習は、看護婦の後について直接患者さんと接し、いろいろ実践することを求められました。実習記録の薄井式は難しくなかなか書くことができず中身の薄いものでしたが、あまり厳しく言われませんでした。しかし、私が40歳過ぎてから看護専任教員の資格を取るために、いろいろな看護理論や看護に関する本などを読んだときは、若いうちに読むべきだったと痛感しました。知識をつけると患者理解につながり、看護に対する考え方方が広がるからです。学生の3年間は基礎を学び、看護観をしっかり育てることが大事です。医学の進歩に伴い、看護教育で求められるものは年々高くなっていますが、今は各実習場に実習指導者や教員が必ず居て、指導をしてもらいます。相談にも乗ってもらえるし、図書室には参考書や看護学生雑誌がたくさんあり、学習環境は整っています。臨床実習は厳しいですが、同じ目的を持つ同級生と切磋琢磨しながら、看護の心と技を磨いてください。それを体現していくのが卒業後です。南大阪病院にはたくさんの卒業生が勤務し、キャリアを積み上げています。その人たちからも学び、南大阪の歴史を積み上げていって欲しいと思います。

## 3年間の全寮制で得た貴重な経験

社会医療法人景岳会 南大阪病院 外来  
第19期生 片山 直子

我が母校、南大阪看護専門学校が昭和48年創立、今年50周年と聞いて19期生卒業である私は同じ月日を過ごしてきたのだと改めて知りました。

今回記念誌に寄稿する機会をいただき、3年間全寮制で経験した貴重な思い出を書きたいと考えました。

入学と同時に寮での生活が始まり、2人一部屋で2つの勉強机、2段ベッドで、下は九州から上は愛知までの他府県出身が多く、方言バリバリでの生活が始まりました。私の同室は九州から来ていて四国出身のわたしが階段を上がっている途中に「あーセコイわ」と言ったことを後から「私なんか気に障ることした?」と言われて、私の田舎では「せこい」は苦しい、しんどいなどでも使うのが一般的で「やることがせこい」などでつかうと初めて知りました。「方言の違いは恐るべし」と実感する経験でした。また、私たちの時代の全寮制とは、実家が近くでも月～土までは門限が21時で土日は外泊可能であったため、3学年総勢150名近くが寮で生活をしていた。21時の門限に遅れると「1ヶ月外出・外泊禁止」というルールがあった。外出ができないと買い物は行けず、普段は毎日入浴ができるても土日は風呂なしのための銭湯に行くことができなくなる。土日に泊まりで遊びに行くこともできなくなる。恐怖とスリルのある生活だったが、今、考えると田舎から出てきている学生の多くのご両親、家族にしたら寮という安心した環境で、全寮制での厳しいルールも守ることが当たり前でした。1年生の頃は、「食器洗い当番」があり、全3学年の使用後の食器を昼休憩中に3～4人ですべてを手洗いするという役割があり、限られた時間内でいかに効率よく、協力して行うということを考えるよい機会となりました。寮では、毎食事が準備されていたのだが、食べ盛りの時期に寮の夕食では少なかった。この当時、お金もなく、おいしい夜食を食べるには、給湯室におかれている残りご飯のおにぎりに何人もの学生で持ち寄った納豆、ネギ、卵などかさ増しをしてみんなで食べた夜食が本当においしかったことを思い出します。おかげで田舎では食べられなかつた納豆が食べられるようになりました。3年生の体育祭には使用し終えた自分の白衣の下を縫い合わせ、スカート式をズボンの形にして変えて、首にはバンダナをつけて急遽おそろいの衣装にしました。(2～3日前に発案者が寮の各部屋を回り説明し当日全員がおそろいにできたことにより団結力が強くなったと感じた)

寮であるが故に、一人でいたいときもどこかに誰かがいてそれが苦痛と思うときもあったが、身近な友人は私の少しの変化、体調・気分の落ち込みなどにお互いに気づくことができ、学校以外でもずっと一緒にため、うわべでの付き合いはできず、家族の様な密接な関係ができ寮生活であったから築けた関係だと実感しています。

現代社会での学校教育では、上下関係が度を超すとパワーハラスメントとして問題になるが、上学年の指導や寮の規律に対する指導は、家族、両親では教えてもらえない協調性、忍耐力を養うことができ、目上の患者様への接し方や患者様を目の前にして自分でしかできない判断力など全員が目標とする看護師には必要不可欠であり、その多くを寮生活で学んだといえます。

国家試験当日の朝は寮全体に流行っていた槇原敬之の「どんなときも」が全館放送で流れ、試験を頑張ろうという気持ちを奮いたたせてくれたことを今も覚えている。全員で電車に乗って試験会場に行き、みんなで試験を受けた。一緒である安心感、心地よさが本当に勇気づけてくれました。

今まで半世紀生きた私の人生の中で、3年間の全寮制での経験は、何物にも代えがたい貴重で有意義な経験であったと実感している。今後も、南大阪看護専門学校が発展し、看護師の仲間が、南大阪病院で活躍できることと思って楽しみに私も頑張っていきたいと思います。

# 南大阪看護専門学校での学びを振り返って ～私の看護の基盤となつたもの～

社会医療法人景岳会南大阪病院 8階病棟主任 皮膚・排泄ケア認定看護師  
第28期生 村上 嶽

はじめに、南大阪看護専門学校の創立50周年に心よりのお祝いを申し上げます。また、卒業生代表の一人として文章を寄せるこのような機会をいただいたことに感謝申し上げます。

南大阪看護専門学校で学び、国家試験を経て看護師として南大阪病院に勤務して約20年が経ちました。それでも、看護学校での講義や実習、学校生活など多くのことが心に残っています。高校時代にこれから進路を考え、医療に興味を持ち看護師を志すことにしました。そして、南大阪看護専門学校で学ぶこととなりました。医療や看護への挑戦や新しい環境など、入学式では不安と期待がどちらも一杯であったと記憶しています。

学校での講義では解剖生理や薬理学、様々な疾患やその看護など、専門的な医療や看護の知識・技術について、南大阪病院の医師や看護師、教員をはじめとした講師の方々に詳しくわかりやすく授業をしていただきました。試験に臨む際には同期同士で教え合い、時には学内の先輩から助けていただくこともあります。私自身の至らなさもあり試験で赤点を取って悪戦苦闘してしまったことも今では良い思い出です。同期の学生とは、同じ看護師を志す仲間として、時に悩みや弱さを共有できる友人として、その存在があったからこそ3年間の学校生活や講義・実習、国家試験などを乗り切ることができたのではないかと思います。

そして、学校生活で一番印象に残っていることといえば、やはり病院や施設での実習でしょうか。南大阪病院の様々な病棟（外科や内科、当時は小児科や産婦人科もありました）、訪問看護ステーション、系列施設である白寿苑、精神科実習で訪れた浅香山病院など。たくさんの受け持ち患者さんとの関りや指導者である先輩看護師さんから看護の基本となる多くのことを学びました。清潔援助や移動の介助など学生同士で演習をして臨みましたが、なかなか上手くいきません。しかし、担当となった先輩看護師さんが業務多忙にも関わらず丁寧に指導してくださいました。私が今でも実践しているケアの技術や方法は、この実習で学んだことが基盤となっていることがあります。受け持ち患者さんに対して看護計画を立案し、基本となるバイタルサインの測定や日常生活援助を実施させていただきました。学生の未熟な技術では患者さんにご迷惑だったこともあったと思います。それでも、「学生さんなんだから緊張せずに」「勉強だから大丈夫、ありがとう」など温かい言葉をかけていただきました。実習と並行しての学習や記録などでくじけになることもありましたが、先輩看護師さんの看護に臨む姿勢に刺激をいただき、受け持ち患者さんの優しさに助けていただいたことにいまでも感謝しています。

私は現在、皮膚・排泄ケア認定看護師という人工肛門や褥瘡、排泄ケアなどを専門的に行う看護師として活動しています。思い返せば、実習中に消化器外科で終末期の患者さんを受け持ち外科疾患への看護に興味を持ちました。そして、南大阪病院の外科・泌尿器科病棟に配属され、人工肛門の患者さんを担当したり、その他さまざまな患者さんや医師・先輩看護師と関わったりしながら学び成長させていただきました。振り返ると、皮膚・排泄ケア認定看護師を志すきっかけのひとつに学生時代の経験が影響していたのだなと思います。

私自身の看護師としての基盤となった南大阪看護専門学校、毎年多くの後輩が卒業し看護師として活躍しています。超高齢化社会となった日本において看護師の力はますます必要とされています。そのような時代に重要な役割を担う南大阪看護専門学校の今後のますますの発展を祈念して、締めくくりとさせていただきます。

## 今の自分の看護師像が構築された3年間を思い出して

地方独立行政法人りんくう総合医療センター 8階山側病棟 副師長  
第32期生 東郷 正弘

南大阪看護専門学校の門を叩いたのが、約18年前でした。‘人の役に立ちたい’そんな軽い気持ちで看護師を目指したあの頃。1年生から2年生の間は勉強・テスト・再試、勉強・テスト・再試を繰り返し憔悴しかけるも、なんとか先生方の多大なるサポートのおかげで実習に臨むことができました。その後は、看護とは？をとても考えさせられる実習であり今の自分があるのもある実習経験があったからではないかなと思うくらい内容の濃いものでした。学生時代のエピソードとしては、僕らのクラスは催し物が大好きで3年生の時に許可をもらい、講堂でお昼休みに漫才＆ライブを行ったり、3年生を送る会ではごくせんを真似た劇をやったりと勉強以外の行動力がとてもあったのを笑いと共に懐かしく思います。

そんな僕は、卒業とともに南大阪病院整形外科病棟で6年間働き、その後、救急現場を経験したく大阪府泉州救命救急センター集中治療室に就職し、集中治療室で様々な生命の危機に直面した患者や家族と向き合い、患者ファーストの精神や、チーム医療の重要さ、成人教育の難しさなど様々な経験をしました。そして働いていく中で、自分の看護師としての役割を考えるようになりました。そして、ファシリテートや指導、教育などに興味を示して2018年に副師長として管理者の道に進むこととなりました。現在は、部署異動となり、血液内科・腎臓内科・糖尿病内科病棟で管理者として日々働いています。

約16年看護師を続けてきましたが、色々なことで悩んだり辛いこともあります。しかし、患者にとって看護師は病院の中で生活する中で唯一生活状況のサポートをする存在で医療者の誰よりも近くにいる存在です。患者の思いを聞き、汲み取り、また家族の思いも確認し日々向き合っていかなければなりません。時には心が折れることだってあると思います。そんな時は、僕たちも相談できる相手に思いを伝えてアンガーマネジメントを整えて日々の業務を進めていかなければいけません。相談したくなったら、先輩や上司、家族、専門学校の先生に相談してもいいと思います。看護師全員が一丸となって日本の看護を支えていきましょう。

規模がちょっと大きすぎる話になりましたが、これで南大阪専門学校50周年を記念する寄稿文といたします。次に100周年でお会いできることを楽しみにしております。

## 私の原点

公益財団法人 総合病院 浅香山病院  
第44期生 岡 優子

南大阪看護専門学校創立50周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

今回、創立50周年記念誌寄稿のお話をいただき南大阪看護専門学校での三年間をあらためて振り返ってみると、今の看護師としての私にとっての原点になっていることに気づきました。

私は入学前は社会人として医療とは全く関係のない分野で約10年間働いていましたが、入学後は看護師を目指す者としての厳しさを感じる日々でした。特に患者さんと実際に関わる実習は思い出に残っています。実習は想像以上に大変で、悩んだり落ち込んだりすることが多く、こんな私が看護師になってもいいのだろうかと心が折れそうになりました。しかし、そんな時には同じように看護師を目指す仲間と励まし合いながら乗り越えることができました。そしてなにより、患者さんの笑顔や患者さんとの関わりが毎日の原動力になりました。教員や指導者の方々も常に患者さんを中心に指導や助言をしてくださり、どんな時でもとにかく患者さんに关心を持って関わることを意識して実習に取り組むようにしました。そのため、卒業して4年経った今でも実習で担当させていただいたすべての患者さんの顔を鮮明に覚えており、辛かったことよりも患者さんと笑い合ったことや患者さんからかけていただいたあたたかい言葉のほうが印象に残っています。それは今でも変わらず、患者さんと関わる時間を大事にし、患者さんを知ってケアに活かしていくことをもっと大切にしています。私は急性期病棟で勤務しており、近年ではCOVID-19の出現などで業務が煩雑化し多忙な日々ですが、学生時代と同じく辛いことや大変なことより患者さんとの関りやケアの楽しさや喜びのほうが大きいため前向きに患者さんと向き合うことができています。

学生時代の印象深い思い出のもう一つとして、卒業式で特別賞をいただいたことがあります。特別賞はクラスで貢献した人をクラス全員の投票で決めるもので卒業式当日まで発表されませんでした。44期生は年齢も経験もバラバラで、それぞれ個性的なため衝突することも少なくありませんでした。しかし、一緒に過ごす時間が増えるにつれて互いが認め合い“やるときはやる！”を合言葉に、楽しい時だけではなく辛い時も助け合い、国家試験受験者が全員合格するような素晴らしいクラスでした。そんななか、まさか自分が特別賞をいただけるとは思っておらず、名前を呼ばれたときには驚きのあまりすぐに返事ができなかったことを覚えています。自分がそのような賞をいただけたことはもちろん嬉しかったのですが、仲間が自分のことのように喜び涙を流してくれたことがほんとうに嬉しかったです。私は実技のテストは一回で合格したことなく、座学の点数が特別いいわけでもありませんでした。実習の出来も決していいわけではありませんでした。しかし、特別賞をいただいたことで、自分でも仲間のために一つのチームのなかでできることがあるのだとわかりました。この経験から、今も患者さんを中心としたチーム医療のなかで自分ができることは何かをいつも考えて行動するようにしています。

このように、在学中の経験は看護師である私の原点となっており、南大阪看護専門学校での3年間があるからこそ悩みながらも明るく楽しみながら看護師として毎日を過ごせているのだと思います。今、当時の私のように悩みながら頑張っている後輩のみなさんも一日一日の学びや感じたことを大事にし、理想の看護師を目指してほしいと思います。創立50周年を迎られ、これからも患者さんに愛されるような看護師が育まれる環境であり続けることを願っています。

# 開校50周年を迎える時期に就任して

副学校長  
薮本 初音

私は2022年4月に本校の副学校長に就任いたしました。その時すでに50周年記念誌発刊に向けて、着々と準備が進められていました。定年まで保健師として活動していた私は、就職4年目に南大阪病院が建つ住之江区に異動となり、北加賀屋地域を担当していたこともあり、何だか不思議な縁を感じる就任でした。当時、未熟児や生活習慣病の方の入退院にかかる支援に向け、南大阪病院や住吉市民病院（統合により廃院）と連絡を取りながら地域を駆けまわっていたことを懐かしく思い出します。

さて、ここ数十年で日本の看護教育は大きく様変わりしました。看護大学が数多く創設され、各大学において特色ある教育方針を掲げながら、4年間で看護師の養成が進められています。一方、3年間の看護師養成施設においても新カリキュラムが定められたことを契機に、教育理念や教育方針を再検討する学校が増え、こちらも各校が今まで以上に特色を打ち出し看護師養成を行っています。新カリキュラムのもとでは習得すべき単位数も増え、複雑多様化する健康問題に対応するための科目も増設され、4年間でそれらを習得する大学生に比べると、3年間で習得しなければならない学生達は、タイトな学校生活を余儀なくされています。

そんな中、座学の授業では見ることができない学生たち的一面を知る機会がありました。

本校の教育方針である「知育・德育・体育」のもと組み込まれている、音楽や体育、手話などの授業や行事での学生達の姿です。

特に印象的だったのは、コロナ禍で一時期中止していた3学年対抗の体育祭を再開した時のことです。この行事の内容や運営は学生が自分たちで決定し実行していますが、グループの中で明るい表情で伸び伸びと動きまわる学生の姿を目撃したりにし、「こんな表情で、3年間の学生生活が過ごせる教育環境を整えることができればいいな」と痛感しました。

人の命と向きあう看護教育においては、楽しさだけではなく厳しさも必要です。ただその中でも学生の意思や個別性を尊重しながら、「自分たちで学ぶ、自分たちで考える」という自律と自覚を促す教育の積み重ねが重要だと考えます。学生自身が学ぶことの大変さ、楽しさ、達成感を受け止めて次に進んでもらいたいと考えています。そしてそのためには教員側も「学生から学ぶ、学生と学ぶ」という姿勢を忘れず、その上に自己研鑽を重ね資質の向上に努めていくことが不可欠です。

卒業生は幅広い分野で活躍されています。大阪府下で初めての民間総合病院として認可された母体病院を有するという自負、「地域医療の中心的病院としての使命と役割を自覚し、地域住民と社会のニーズに対応できる看護の実践を目指す」という看護部の理念を土台に、学生達のピュアな感性と教員の知識と経験をうまくミックスさせ、51年目からの本校の看護教育を発展させていきたいものです。

## 感謝

教務主任

高岡 操

南大阪看護専門学校を卒業し、南大阪病院の病棟で5年間勤務しました。当時の看護部長に専任教員養成講習会を受講しないかと声をかけられました。教員になることを考えていなかったため最初は戸惑いましたが、実習指導を行っている中で教育に興味を持ちはじめた時期もあり受講することを決めました。

看護教員になって、学生との関わりについて悩み考えることが多くありました。しかし学生から看護とは何かを教えられたり、気づかされたりする機会が多くありました。「何か教えなければいけない」と思っていたところがあったのですが、学生から「共に学び・共に成長していくこと」の大切を教わったように思います。

看護教員としての成長には上司・先輩方の存在が大きいです。教育とはなにか、まだはっきり理解できていない私の「これをやりたい」との思いに水を差さずやりたいようにやらせてもらえた環境がありました。今思えば、やりたい放題だったと反省する点もありますが、実践を通して教育について考える機会を与えてもらえた貴重な経験だったと感謝しています。

そして現在、教務主任になり6年が経とうとしています。立場が変わり、教育には本当に多くの方の関りがあり成り立っていることを実感しています。講義を担当していただいている講師、実習を受け入れていただいている施設の方々。本当に多くの方々の支援があり現在の学校が成り立っていると感謝しています。看護も教育もやはり「人」が行っていることで、人とのつながりが重要であると思われます。

時代とともに人々の生活様式・価値観等が変化しています。多様な生活様式・価値観の対象に「その人らしさを大切にした看護」が提供できる看護師が必要と考えています。多様性に合わせた看護ができる看護師の育成。そのためには、多様性のある学生に合わせた教育も必要だと考えています。学生は看護についてはまだまだ未熟な部分もあります。しかし磨けば光る原石であり、秘めた力を持っています。それは私がこれまで関わさせていただいた学生が卒業し数年後の姿から教えられました。学生ひとりひとりを大切に、時には厳しく、共に看護とは何かを悩み考え、これからも成長していきたいと思います。また、これまでに南大阪専門学校の歴史を積み重ねてこられた方々に恥じないよう、南大阪看護専門学校が発展するよう努めていきたいと思います。

## 母校の専任教員としての27年間を振り返って

専任教員

東浦 龍至

南大阪看護専門学校を卒業して10年目に母校の専任教員として勤務し、今年で28年目を迎えます。あらためて年数だけを見ると長い時間ではありますが、当の本人にとってはあつという間に過ぎた27年間でした。

「なぜそんなに長く教員をしているのか？魅力は何ですか？」とよく聞かれますが・・・、そのたびに決定的な理由が見当たらぬ適当な返事をしてしまっています。人生の約半分の時間を母校の教務室で専任教員として過ごしてきた私自身にとってはそれが生活の一部として当たり前になっているのかも知れません。ただ言えることは学生と関わることが好きで楽しいからだと思っています。

専任教員として1000人以上の学生と関わり、教員としてだけではなく人として学び、成長をさせてもらえたことは自分自身の財産であり出会った学生たちには本当に感謝の思いでいっぱいです。

持論になりますが、27年間で解ったことは“誠実に向き合うこと”的大切さです。

誠実に向き合うとは、①教員の学生に対する先入観を取り払う。②学生一人一人に対し平等に話を聴く。③学生に愛情を持ち大切に育てる。これらを意識し、関わりを持つことあります。この姿勢を私自身のプライドとして今後も継続していきたいと思っています。私自身は2年後に定年が控えており、教員としての時間も短くなってしまったが看護学校への恩返しを含め微力ながら努めていきたいと思っています。

### 母校で看護教員になって

専任教員

高田 紳吾

私が教員になろうと思ったのは、看護学生時代に教員の先生方に支えられたことがきっかけでした。特に3年間担任をしていただいた前岡先生にはお世話になったことを覚えています。実習では患者様とどのように関われば良いのか、何をしていくことが患者様のためになるのかがわからずとても手のかかる学生だったと思います。そんな私に何をするかではなく何のためにするのか、学生である自分に何ができるかを考えるきっかけをたくさん作っていただきました。そのような経験から看護学校を卒業するときにはいつか看護学校の教員になり自分がしていただいたように学生を支えることができたらいいなと思うようになっていました。そして、南大阪病院に就職し看護師として働く中で看護部長や師長さん、先輩や同期、後輩と共に働く中で看護師として患者様と関わる大変さとそれ以上のやりがいや楽しみを感じ、こんなに素敵な仕事になりたいと考えている学生を支えることができたらと考え看護学校の教員への道を改めて決断しました。

そして実際に看護教員になり学生と関わる中で、看護を伝えることの難しさを痛感しました。看護は明確な答えもなく多種多様に変化し患者様毎に何のために、何をするのかも変わります。そのため明確な答えも教員自身も持つてはいないのですが学生は答えを求める。だからこそ自分自身が学生時代にしていただいたような考えるきっかけを上手に良いタイミングで作るかが大切な仕事だと思います。それが本当に難しいなといつも感じます。そのように感じながらも教員として続けられているのは、学生がいるからだと思います。学生に関わっているようで学生に関わってもらっていて、支えているようで支えられてもらって教員を続けられています。その中で少しでも学生が看護を考えるきっかけを作っていく教員でありたいと思います。

### 看護教育に大切に思うこと

専任教員

木村 一美

南大阪看護専門学校創立50周年おめでとうございます。

この学校創立50周年という意義ある時節に、看護教員として勤務させていただけることに感謝の念がつきません。

私の看護教員生活は、他校での経験を含めると10年余りになりますが、この南大阪看護専門学校で勤務させていただくようになり2年余りです。就職して1年目に、本校での戴帽式に初めて携わらせて頂き、大変に感銘を受けました。厳粛な儀式での、学生たちの凛とした立ち姿、戴帽を受けたキャンドルサービスでの堂々とした姿は、感無量でした。学生たちも、看護の道への新たな覚悟と決意を固めていったことだと思いますが、私にとっても看護教員として身が引き締まり、看護道の再確認をすることができました。この戴帽式は、儀式自体を省略されている学校が多くなってきましたが、本校は50年間続けられています。ナイチンゲール誓詞を唱え、ナイチンゲールの教えとして、看護師としての必要な考え方や心構えを学んでいくことは継続していくことが必要であり、本校で大切にされている部分だと思います。

厚生労働省における看護基礎教育のあり方では、看護職員に求められる資質・能力について「看護は、人を対象とする職業であることから、看護職員には、豊かな人間性や包容力、及び人としての成熟が求められる。」と提唱されています。本校においても、校歌に「豊けき知性高めつつ、ゆかしき心培わん」と詩っています。私も、人を大切にし、学生が患者様に寄り添うように、学生に寄り添いながら、本校の温かみのある教育の伝統を継承してまいりたいと思います。

## 創立50周年によせて

専任教員  
名倉真砂美

このたびは南大阪看護専門学校が創立50周年をむかえられることを心よりお喜び申し上げます。私は2022年4月にご縁があってこの学校に着任いたしました。校舎のたたずまいに、かつて自分が学んだ看護専門学校を思い出しました（ずいぶん前のことですが）。

この学校ができた50年前の昭和48年は、看護師が「看護婦」とよばれていたころになります。かつては養成所とよばれた看護専門学校も、医療の進歩に伴い高度な看護技術を実践できる専門家としての看護師の育成が求められています。

近年は少子化による看護の担い手不足や、医療の高度化とともに看護および看護職が置かれている状況はますます厳しくなってきています。また団塊の世代が引退し、日本人の5人にひとりが75歳以上となる「2025年問題」も間近に迫っています。看護にとって大変な世の中になりつつありますが、このようななかでも自律して活躍できる、そして優しい心を持った看護師となれますよう学生を支えていきたいと思っております。

最後になりますが、南大阪看護専門学校の今後の発展とご活躍をお祈りいたします。

南大阪看護専門学校で教員となつて

専任教員  
山内 雅子

南大阪看護専門学校創立50周年おめでとうございます。

長い間看護師として働いてきた私にご縁があり、南大阪看護専門学校の教員として働く様になり、早くも7年が経過しました。看護師として学生を指導することはありました、教育について、右も左も分からぬまま、教育の世界に飛び込み、どきどきしながら学生の前で挨拶したことを思い出します。試験の採点や、先輩先生方の講義の見学や補助から始め、徐々に講義を行うようになりました。講義では学生に何を教えたたら良いのか、どのように伝えたら良いのか悩み、学生の時より勉強漬けの毎日でした。そんな中、先輩先生に「先生は学生にどんな看護師になって欲しい？」と聞かれ何も答えられず、ハッとしたことを覚えています。この7年、言葉の大切さや、伝えることの難しさ等、教育の基本からたくさんのことを見えていました。人前が苦手な私がこんな大変な仕事ができるだろうかと、緊張と不安を抱きながら教室に入ったのですが、若さあふれる学生達が、目をきらきらさせながら一生懸命に話を聞いてくれ、いつの間にか緊張や不安も忘れ教育の楽しさまでを感じることができていました。7年経過した今でも人前は苦手で緊張はしますが、学生の笑顔や何かを学んだ姿をみると、また頑張ろう！という気持ちになり、毎日学生と一緒に成長している気がします。

看護の仕事はうれしいことばかりではありません。辛い時も時には涙を流す時もあります。一生懸命行つたことでも人を傷つけることもあります。ただ学生には相手の立場に立つて、優しさを持って、看護できる人になって欲しい。いつまでも看護師である前に人として相手を思いやれる人になって欲しいと思っています。そう思いながらこれからも南大阪看護専門学校の一教員として、一生懸命学生と共に成長していきたいと思います。

最後になりましたが、この記念する50周年に専任教員として関わられたことに感謝し、南大阪看護専門学校の今後の発展とご活躍をお祈りいたします。

### 南大阪看護専門学校創立50周年によせて

事務  
宮川みち子

南大阪看護専門学校創立50周年、心よりお祝い申し上げます。

私は平成18年に学校事務職員として携わり、早いもので16年が経ちました。

学校事務や看護学生さんとの関わりに当初は戸惑いもありましたが、前向きな皆さんとの日常姿勢が刺激となり今日まで続けて参りました。

私には看護という未知の世界がとても新鮮でまた重要な職業だと、時が経つほどに日々実感いたしております。

卒業生の皆さんには、きっと社会のいろいろな場所、場面でご活躍されていることと拝察いたします。そして、その礎となっているのは講師の先生方、実習病院の指導者の方、教職員等多くの方の看護教育に対するご理解とご協力が大きいと思います。

看護師をこころざし、本校に進学をした皆さんには先輩諸氏をお手本に、期待され必要とされる看護師となり、ご活躍されることを願っております。

最後になりましたが、南大阪看護専門学校の今後のご発展とご活躍をお祈りいたします。

事務  
鶴羽 真侑

南大阪看護専門学校創立50周年、誠におめでとうございます。卒業生の皆様方におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

私は2016年（平成28年）3月に大学を卒業し、諸事情により前職を退職した後、当時事務長であった父の計らいや様々なご縁があって、同年12月より南大阪看護専門学校に勤務させていただいています。社会経験が無いに等しく、文字通り右も左もわからない状態から早7年、様々な経験をさせていただき現在に至ります。

コロナ禍の時代、医療現場の過酷さが連日報道される中、看護師という最前線の職業を自ら選び、遊び盛りの時期に理想の看護師像に向かって日々勉強・実習に一生懸命励んでいる学生の皆さんのは、尊敬の念に堪えません。その姿を見て日々の活力とさせていただいています。

比較的年齢が近いこともあるてか、学生の皆さんには気軽に話しかけていただき、他愛もない話をよくします。大半が笑い話で一見意味のない会話のように思えますが、3年間の厳しい学校生活の中のひと時の安らぎになってくれていると思えば、少しは皆さんの学校生活に貢献できているのかなと嬉しく思います。

私の新たな母校である南大阪看護専門学校が、立派な看護師を輩出する名門として今後も歴史を刻み続けられますよう、益々のご発展をお祈り申し上げます。

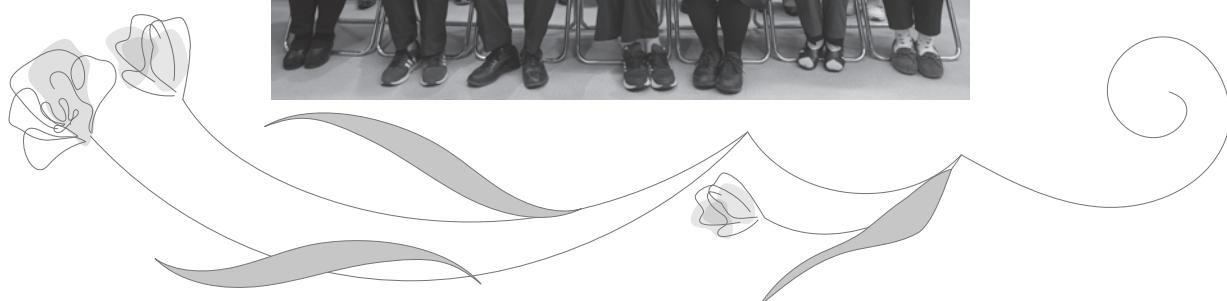
## 職 員

事務  
辻川 秀美

地元に根づき愛され続けてきた50年、心より祝い申し上げます。  
私には娘がいて看護の道に進んでほしかったのですが、人の死に向き合うことに抵抗があったので同じ医療関係の歯科衛生士の道に進みました。  
私自身も看護に関わりたい気持ちもあり、今から看護師になろうと頑張る人に少しでも役に立ちたい応援したいという気持ちでこちらの事務系の仕事に就かせていただきました。  
実際入院した際に思ったことは、さまざまな不安を抱えていたときに接し方・言葉かけ一つひとつ優しく声掛けをして寄り添ってくれたので安心して入院生活を乗り切ることができました。  
学生は学校・実習先で3年間いろいろなことを学び、これから看護師となってたくさんの経験を積み、豊かな知識・技術・人間性を身に付け、患者側の目線に立ってコミュニケーションを大切にし信頼関係を築いて、立派な看護師になってほしいと思います。  
またこの先も新しい時代に向けて更なる飛躍を遂げられますよう願っております。

施設課  
加藤貴代美

創立50周年おめでとうございます。  
私も学校にて仕事させていただき20年を迎えました。常に明るく、元気で優しい生徒さん達にいっぱい元気をもらいました。  
50年間に少しでもかかわったこと、嬉しさと感謝です。  
これからも多くの生徒さんが看護師として巣立っていくこと、応援しています。



## 葛藤の日々を乗り越えて

第48期生

創立50周年、この記念すべき年に私たちが卒業を迎えることを大変嬉しく思います。こうして私たちが3年間学び続けてこられたのは、これまで講義をして下さった多くの講師の方々、実習で指導をして下さった指導者の方々、そして今まで本校を支えてきて下さった先輩方のお力添えあってのことと心から感謝しております。

さて、私たち48期生は入学当初、新型コロナウイルスの影響により休校が続き、不安や戸惑いが多くありました。また、授業が開始されても専門的な単語が多く、実習に対しても分からぬことばかりでした。しかし、看護師になるという同じ志を持つ仲間同士で励まし、支え合いながら、日々学び続け知識や技術を深めてきました。厳しい実習の中でも、分からぬことは教員に相談し、クラスで協力し合うことで48期生らしく乗り越えられ、楽しく学校生活を送ることができました。本校の教育目標に「豊かな人間性を養う」とありますが、48期生は一人一人個性が豊かで、活気に満ちた協調性のあるクラスです。コロナ禍であらゆるイベントがなくなり、なかなか学年を通しての関わりというものは少なかったですが、日々の何気ない学校生活の中で仲を深めることができたと思います。

試験や実習、就職活動、看護研究など全ての行事を終えた今、残っているのは国家試験のみです。48期生全員で国家試験に合格し、夢である看護師になれるように、お互いに教え合ったり放課後に自己学習をしたりと、日々勉強に取り組んでいます。

専門的な知識、技術の習得はもちろん、1人の人間としても成長させて頂いた3年間でした。この3年間で得た多くの学び、思い出、誇りを人生の糧とし、今後に繋げていきたいと思います。

南大阪看護専門学校が今後さらに発展し、より良い学校となるよう祈っております。



## 49期の学校生活～コロナに負けない看護学生～

第49期生

私たち49期生は新型コロナウイルスの影響を受ける中で学生生活を送っています。様々な活動が制限を受ける中、本来であれば病院実習も学内実習に変更を余儀なくされる可能性があったものの、母体病院である南大阪病院のご理解ご協力をいただき、病院実習を実施できていることに感謝いたします。

49期生はタブレットを利用した電子教科書に変更となった初めての学年です。さらに、学内のWi-Fi環境も整備され、教科書の閲覧や検索が容易になり、効率よく学習できる環境となっています。また各分野で活躍され、経験が豊富な先生方より、学習面から生活面に至るまでサポートをしていただき、快適な学生生活を送ることができます。

49期生の特徴として、現役生が多く、積極性の少ない大人しいクラスであります。非常に仲が良く、団結力の強い学年であります。その団結力で、今年度の体育祭では優勝をすることができました。仲の良さ、団結力の強さを活かし、これから迎える領域別実習、国家試験を乗り越え、全員が成長した姿で、笑顔で卒業式を迎えることを願っています。



### 50期生として入学して出会いに感謝

第50期生

50期生としてこの学校に入学して、まずははじめに感じたことは高等学校との違いです。高等学校では様々な夢を持った人たちがいるのに対して、看護専門学校では看護師になるという同じ夢に向かう人たちが集まっておりやる気と意気込みを感じました。また、勉強する内容も大きく違いました。高等学校の数学や国語などの講義とは異なり解剖生理学や基礎看護技術など専門性の高い講義が多く、覚えることや学ぶことも多く日々の勉強は正直大変です。しかし、日々の講義や技術の練習は看護師になるうえでの自分の力になっていると感じているので充実もしています。

学校生活で一番楽しいことは、友達と過ごすことです。友達とは学校の勉強の話だけでなくアルバイトの話などのプライベートな話もして楽しく過ごしています。また友達とは学校内だけではなく学校外でも付き合いがあります。学校の帰りに映画に行ったり友達のアルバイト先にいくなど仲が良いです。そのような時間があることで勉強と遊びのメリハリもつきリフレッシュして過ごすことができています。これから2年間この看護学校で多くのことを学び将来は優しくて格好いい看護師になりたいと思います。そのため人の気持ちに寄り添える力をつけていきたいと思います。



## 4章 学校行事と思い出



## 入学式



## 戴帽式



# 卒業式



## 学内演習風景



## 授業風景

### 音 楽



### 健康とレクリエーション



### 手 話



## 体育祭



## 地域清掃



## 3学年交流会



## 防犯訓練



## ボランティア



清江  
ハロウィン



大阪  
マラソン



南大阪病院  
キャロリング

## オープンキャンパス



## オンライン座談会



# 校 内

ロビー



教 室



情 報  
処理室



講 堂



図 書 室



看 護  
実 習 室





## 5 章 資料



## 南大阪看護専門学校学則

### 第1章 総 則

(目的)

第1条 本校は、看護の業務に従事しようとする者に対して、学校教育法及び保健師助産師看護師法の規定に基づき、看護師として必要な専門的知識、技術及び態度を修得させ、多様な看護場面で看護が実践できる看護師を養成する。また、本校の教育理念に基づき、教養の向上と人間的成长を図り、社会に貢献できる看護専門職者を育成することを目的とする。

(名称)

第2条 本校は南大阪看護専門学校と称する。

(位置)

第3条 本校は大阪府大阪市西成区南津守7丁目14番31号に設置する。

(課程、修業年限及び定員)

第4条 学生の課程修業年限、入学定員及び総定員は次のとおりとする。

課程名	学科	修業年限	入学定員	総定員
看護専門課程（3年課程）	看護学科	3年	40名	120名

(在学年限)

第5条 学生は6年を超えて在籍することができない。

### 第2章 学年・学期及び休業日

(学年)

第6条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第7条 学年を分けて次の2学期とする。

前 期	4月1日から9月30日まで
後 期	10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第8条 休業日は次のとおりとする。

(1) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(2) 土曜日、日曜日

(3) 次に掲げる春期、夏期及び冬期休業日

春期休業 12日間

夏期休業 30日間

冬期休業 14日間

(4) 前項の規定にかかわらず、校長が特に必要があると認めたときは、臨時に休業を行い、又は休業日に授業を行うことがある。

### 第3章 授業科目及び単位数・時間数

(授業科目・単位数・時間数)

第9条 授業科目及び単位数・時間数は別表1のとおりとする。

(授業)

第10条 授業は講義・臨地実習のいずれかにより行う。

(単位の換算規定)

第11条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次のように定める。

- (1) 講義は、15時間から30時間を1単位とする。
- (2) 臨地実習は45時間を1単位とする。

## 第4章 入学・休学・退学・転入学

(入学資格)

第12条 入学資格は次のとおりとする。

学校教育法（昭和22年法律第26号）第90条第1項に該当する者。

(受験手続)

第13条 入学しようとするもの（以下「入学志願者」という）は所定の書類に検定料を添えて期日内に学校長に提出しなければならない。

(入学試験)

第14条 入学志願者には次の試験を行う。

- (1) 学科試験
  - (2) 面接
2. 前項に関する規定は別に定める。

(入学許可)

第15条 入学試験に合格し、所定の日までに保証人連署の誓約書等を提出し、入学金を納付した者に対して入学を許可する。

(保証人)

第16条 保証人については別に定める。

(休学)

第17条 病気その他やむを得ない理由により休学しようとする者は、学校長の許可を受けなければならない。

2. 学校長は病気のため就学に適さないと認めた者に対して休学を命ずることがある。
3. 休学期間は1年以内とする。
4. 休学期間に休学の理由が消滅したことにより復学しようとする者は学校長の許可を受けなければならない。

(退学)

第18条 やむを得ない理由により退学しようとする者は、保証人連署のうえ学校長の許可を受けなければならない。

(除籍)

第19条 学校長は次の各号の一に該当する者を除籍することができる。

- (1) 休学期間終了後も復学できない者。
- (2) 学則第5条に規定する年数を在籍してもなお卒業出来ない者。
- (3) 正当な理由がなく、手続きをしないで引き続き6ヶ月以上欠席している者。

(転入學)

第20条 転入学を希望する者がある場合は教育計画及び学科実習の進展が同程度であり、かつやむを得ない事情があると認めた場合には欠員があるときに限り試験の結果許可することがある。

## 第5章 学習の評価・卒業

(単位の認定)

第21条 各授業科目への出席時間数が別に定める基準を満たし、授業科目毎に実施する試験に合格した者には成績審査会で単位を認定する。

2. 学習の評価は、100点を満点とし、60点以上を合格とする。
3. 傷病その他やむを得ない理由により試験に欠席した者に対しては、追試験を行うことがある。
4. 試験の成績が60点未満の者に対しては、再試験を行うことができる。
5. 追試験及び再試験については別に定める。

(入学前の既習単位の認定)

第22条 本校は教育上有益と認めるときは、別に定めるところにより、学生が本校に入学する以前に、大学や他の学校養成所等において修得した単位を、本校に入学した後の本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

(卒業)

第23条 卒業の要件は次のとおりとする。学校運営会議で卒業を許可された者に別記による卒業証書を授与する。

- (1) 第9条に定める単位すべて認定された者
- (2) 学校が別に定める時間数の3分の2以上を出席している者

第24条 前条により卒業を認定した者には専門士（医療専門課程）の称号を付与する。

## 第6章 健康管理

(健康診断)

第25条 学生の健康診断は毎年2回以上実施する。

2. 学生の健康管理は学校長の定める健康管理規程により実施する。

## 第7章 組織

(職員)

第26条 本校には次の職員をおく。

- |                |                |
|----------------|----------------|
| (1) 学 校 長      | 1名             |
| (2) 副 学 校 長    | 1名             |
| (3) 教 務 部 長    | 1名             |
| (4) 教 務 主 任    | 1名             |
| (5) 実習調整者      | 1名             |
| (6) 専 任 教 員    | 7名以上（実習調整者を含む） |
| (7) 講 師        | 35名以上          |
| (8) 校 医        | 1名             |
| (9) 専任事務職員     | 1名以上           |
| (10) 事務及びその他職員 | 若干名            |

2. 副学校長または教務部長は、いずれか1名をおくものとする。
3. 職員の職務については別に定める。

(会議)

第27条 本校は業務運営のため次の会議を行う。

- (1) 学校運営会議
- (2) 講師会議
- (3) 成績審査会
- (4) 臨地実習指導者会議
- (5) その他必要に応じて行う

2. 会議に関する規定は別に定める。

(学校評価)

第28条 本校は教育の一層の充実を図り、本校の目的および社会的使命を達成するため、教育活動その他の学校運営の状況について自ら点検および評価（以下「自己評価」という）を行い、結果を公表するものとする。

- 2. 自己評価結果を踏まえ、本校の関係者による評価（以下「学校関係者評価」という）を行い、その結果を教育活動等に活用するとともに公表する
- 3. 前2項に定める自己評価および学校関係者評価の実施ならびに結果の公表について必要な事項は、別に定める

## 第8章 賞 罰

(褒 賞)

第29条 次の各号に該当する者は褒賞することがある。

- (1) 品行方正で学業優秀な者。
- (2) 学業に精励し、学生として他の模範と認められる者。

(懲 戒)

第30条 本校の学則等に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、校長が懲戒する。

- 2. 懲戒の種類は次のとおりとする。
  - (1) 戒 告
  - (2) 停 学
  - (3) 退 学
- 3. 前項の退学は次の各号の一に該当する学生に対して行う。
  - (1) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者。
  - (2) 正当な理由がなくて出席が常でない者。
  - (3) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者。
  - (4) 正当な理由がなく授業料及び管理・実習費等を滞納し、指定の期間内に納付しない者。
  - (5) 学校の秩序を乱し、その他学生としてその本分に反した者。

## 第9章 学 納 金

(学 納 金)

第31条 授業料及び管理・実習費等については別表2のとおりとする。

- 2. 前項に関する規定は別に定める。

## 第10章 雜 則

(施行)

第32条 この学則に必要な事項は校長が定める。

## 附 則

(施行日)

- この学則は昭和48年4月1日より施行する。
- この学則は昭和51年9月1日より改正施行する。
- この学則は昭和56年4月1日より改正施行する。
- この学則は昭和59年4月1日より改正施行する。
- この学則は昭和63年4月1日より改正施行する。
- この学則は平成2年4月1日より改正施行する。  
但し平成2年3月31日以前の入学者に対しては従前の学則を適用する。
- この学則は平成3年10月1日より改正施行する。
- この学則は平成6年10月1日より改正施行する。
- この学則は平成7年3月1日より改正施行する。
- この学則は平成9年4月1日より改正施行する。
- この学則は平成14年4月1日より改正施行する。  
但し平成14年3月31日以前の入学者に対しては従前の学則を適用する。
- この学則は平成18年4月1日より改正施行する。
- この学則は平成19年4月1日より改正施行する。
- この学則は平成19年9月1日より改正施行する。
- この学則は平成21年4月1日より改正施行する。
- この学則は平成23年4月1日より改正施行する。
- この学則は平成25年4月1日より改正施行する。
- この学則は平成28年4月1日より改正施行する。  
但し、別表2は平成29年4月1日以降の入学者に適用する。
- この学則は2022年4月1日より改正施行する。  
但し2022年3月31日以前の入学者に対しては従前の学則を適用する。
- この学則は2023年4月1日より改正施行する。  
但し、別表2は2024年4月1日以降の入学者に適用する。

別表1

## 授業科目及び単位数・時間数

No.1

区分	教育内容	授業科目	単位	時間	年次別		
					1年	2年	3年
基礎分野	科学的思考の基盤	国語表現	1	30	30		
		倫理学	1	30	30		
		生物学	1	30	30		
		看護に必要な物理	1	16	16		
		情報科学Ⅰ	1	16	16		
		情報科学Ⅱ	1	30	30		
専門基礎分野	人間と生活・社会の理解	心理学	1	30	30		
		人間関係論	1	30		30	
		社会学	1	30	30		
		教育学	1	30		30	
		英語Ⅰ	1	30	30		
		英語Ⅱ	1	30	30		
		健康とレクリエーション	1	30	30		
		音楽	1	16	16		
		小計	14	378	318	60	0
専門分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1	30	30		
		解剖生理学Ⅱ	1	30	30		
		解剖生理学Ⅲ	1	30	30		
		解剖生理学Ⅳ	1	30	30		
		生化学	1	30	30		
	疾病の成り立ちと回復の促進	栄養学	1	30	30		
		微生物学	1	30	30		
		病理学	1	30	30		
		病態生理学Ⅰ	1	30	30		
		病態生理学Ⅱ	1	30	30		
		病態生理学Ⅲ	1	30	30		
		病態生理学Ⅳ	1	30	30		
		病態生理学Ⅴ	1	30	30		
		治療論	1	16	16		
		薬理学	1	30	30		
	健康支援と社会保障制度	臨床検査学	1	16	16		
		医療概論	1	16	16		
		社会福祉Ⅰ	1	16	16		
		社会福祉Ⅱ	1	30		30	
		公衆衛生学	1	30	30		
		社会保障論	1	16		16	
	小計	関係法規	1	16		16	
		小計	22	576	514	62	0
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	30		
		看護研究Ⅰ	1	16		16	
		基礎看護技術Ⅰ	1	30	30		
		基礎看護技術Ⅱ	1	30	30		
		基礎看護技術Ⅲ	1	30	30		
		基礎看護技術Ⅳ	1	30	30		
		基礎看護技術Ⅴ	1	30	30		
		基礎看護技術VI	1	30	30		
		基礎看護技術VII	1	30	30		
		基礎看護技術VIII	1	30	30		
	地域・在宅看護論	臨床看護総論	1	30	30		
		地域看護Ⅰ	1	16	16		
		地域看護Ⅱ	1	30		30	
		在宅看護概論	1	30		30	
		在宅看護方法論Ⅰ	1	30		30	
		在宅看護方法論Ⅱ	1	30		30	
		在宅看護方法論Ⅲ	1	16		16	

区分	教育内容	授業科目	単位	時間	年次別			
					1年	2年	3年	
専 門 分 野	成人看護学	成人看護学概論	1	30	30			
		成人看護学方法論Ⅰ	1	30		30		
		成人看護学方法論Ⅱ	1	30		30		
		成人看護学方法論Ⅲ	1	30		30		
		成人看護学方法論Ⅳ	1	30		30		
		成人看護学方法論Ⅴ	1	30		30		
専 門 分 野	老年看護学	老年看護学概論	1	30		30		
		老年看護学方法論Ⅰ	1	30		30		
		老年看護学方法論Ⅱ	1	30		30		
		老年看護学方法論Ⅲ	1	16		16		
専 門 分 野	小児看護学	小児看護学概論	1	30		30		
		小児看護学方法論Ⅰ	1	30		30		
		小児看護学方法論Ⅱ	1	30		30		
		小児看護学方法論Ⅲ	1	16		16		
専 門 分 野	母性看護学	母性看護学概論	1	30		30		
		母性看護学方法論Ⅰ	1	30		30		
		母性看護学方法論Ⅱ	1	30		30		
		母性看護学方法論Ⅲ	1	16		16		
専 門 分 野	精神看護学	精神看護学概論	1	30		30		
		精神看護学方法論Ⅰ	1	30		30		
		精神看護学方法論Ⅱ	1	30		30		
		精神看護学方法論Ⅲ	1	16		16		
専 門 分 野	看護の統合と実践	看護管理	1	16			16	
		看護研究Ⅱ	1	30			30	
		災害看護	1	30			30	
		看護の統合と実践	1	30			30	
臨 地 実 習	基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	45			
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90		90		
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論実習	2	90			90	
	成人看護学	成人・老年看護学実習Ⅰ	2	90		90		
		成人・老年看護学実習Ⅱ	2	90			90	
		成人・老年看護学実習Ⅲ	2	90			90	
	老年看護学	老年看護学実習Ⅰ	2	90		90		
	小児看護学	小児看護学実習	2	90			90	
	母性看護学	母性看護学実習	2	90			90	
	精神看護学	精神看護学実習	2	90			90	
	看護の統合と実 践	統合実習Ⅰ	2	90		90		
		統合実習Ⅱ	2	90			90	
小 計			66	2213	391	996	826	
総 計			102	3167	1223	1118	826	

別表2

授業料その他学納金

1.	入学検定料	30,000円
2.	入学金	300,000円
3.	授業料	年額 450,000円 (半期 225,000円)
4.	管理・実習費	年額 200,000円 (半期 100,000円)
5.	教育充実費	年額 100,000円 (半期 50,000円)

別記

割印 第号

卒業証書 氏名 生年月日

校印

あなたは本校で看護専門課程看護学科（看護師養成  
3年課程・3年）の所定の課程を修めたので卒業証書  
を授与し文部科学大臣告示（平成6年文部省告示  
第84号）により、専門士（医療専門課程）と証する  
ことを認めます。

年月日

南大阪看護専門学校長 氏名

## 学校長・副校长長・教務主任・事務長一覧

	学校長	副校长長	教務部長	教務主任	事務長
1992年度(平成4年度)	久保 正治			増 洋	熊本 直文
1993年度(平成5年度)	久保 正治			木下 千富	熊本 直文
1994年度(平成6年度)	久保 正治			木下 千富	熊本 直文
1995年度(平成7年度)	久保 正治			木下 千富	熊本 直文
1996年度(平成8年度)	久保 正治			木下 千富	熊本 直文
1997年度(平成9年度)	久保 正治			木下 千富	熊本 直文
1998年度(平成10年度)	久保 正治			木下 千富	熊本 直文
1999年度(平成11年度)	久保 正治			木下 千富	熊本 直文
2000年度(平成12年度)	宮越 一穂			木下 千富	熊本 直文
2001年度(平成13年度)	宮越 一穂			木下 千富	根本 昌男
2002年度(平成14年度)	久保 正治			木下 千富	根本 昌男
2003年度(平成15年度)	久保 正治		桑原佐智子	嘉月多恵子	根本 昌男
2004年度(平成16年度)	久保 正治		桑原佐智子	東浦 龍至	根本 昌男
2005年度(平成17年度)	久保 正治		桑原佐智子	東浦 龍至	根本 昌男
2006年度(平成18年度)	久保 正治		桑原佐智子	東浦 龍至	根本 昌男
2007年度(平成19年度)	小味渕智雄	桑原佐智子		東浦 龍至	根本 昌男
2008年度(平成20年度)	小味渕智雄	桑原佐智子			根本 昌男
2009年度(平成21年度)	小味渕智雄	桑原佐智子		日高 加代	根本 昌男
2010年度(平成22年度)	小味渕智雄	桑原佐智子		永井みゆき	鶴羽 利男
2011年度(平成23年度)	小味渕智雄	桑原佐智子		太田 和江	鶴羽 利男
2012年度(平成24年度)	小味渕智雄	宮崎 妙子		太田 和江	鶴羽 利男
2013年度(平成25年度)	小味渕智雄	宮崎 妙子		太田 和江	鶴羽 利男
2014年度(平成26年度)	小味渕智雄	宮崎 妙子		太田 和江	鶴羽 利男
2015年度(平成27年度)	小味渕智雄	宮崎 妙子		太田 和江	鶴羽 利男
2016年度(平成28年度)	小味渕智雄	宮崎 妙子		太田 和江	鶴羽 利男
2017年度(平成29年度)	小味渕智雄	宮崎 妙子		高岡 操	鶴羽 利男
2018年度(平成30年度)	小味渕智雄	宮崎 妙子		高岡 操	有賀 浩二
2019年度(令和元年度)	小味渕智雄	宮崎 妙子		高岡 操	有賀 浩二
2020年度(令和2年度)	小味渕智雄	岸本ゆき江		高岡 操	西村誠(課長)
2021年度(令和3年度)	小味渕智雄	岸本ゆき江		高岡 操	
2022年度(令和4年度)	小味渕智雄	薮本 初音		高岡 操	

## 年度別卒業生数（3年課程）

卒業年	期生	卒業生数
昭和51年(1976年)	1	22
昭和52年(1977年)	2	18
昭和53年(1978年)	3	32
昭和54年(1979年)	4	30
昭和55年(1980年)	5	32
昭和56年(1981年)	6	26
昭和57年(1982年)	7	53
昭和58年(1983年)	8	45
昭和59年(1984年)	9	42
昭和60年(1985年)	10	57
昭和61年(1986年)	11	45
昭和62年(1987年)	12	48
昭和63年(1988年)	13	47
平成1年(1989年)	14	52
平成2年(1990年)	15	49
平成3年(1991年)	16	50
平成4年(1992年)	17	51
平成5年(1993年)	18	50
平成6年(1994年)	19	53
平成7年(1995年)	20	50
平成8年(1996年)	21	51
平成9年(1997年)	22	52
平成10年(1998年)	23	54
平成11年(1999年)	24	54

卒業年	期生	卒業生数
平成12年(2000年)	25	50
平成13年(2001年)	26	48
平成14年(2002年)	27	51
平成15年(2003年)	28	44
平成16年(2004年)	29	45
平成17年(2005年)	30	48
平成18年(2006年)	31	49
平成19年(2007年)	32	44
平成20年(2008年)	33	40
平成21年(2009年)	34	27
平成22年(2010年)	35	38
平成23年(2011年)	36	34
平成24年(2012年)	37	34
平成25年(2013年)	38	31
平成26年(2014年)	39	33
平成27年(2015年)	40	35
平成28年(2016年)	41	28
平成29年(2017年)	42	36
平成30年(2018年)	43	34
平成31年(2019年)	44	29
令和2年(2020年)	45	35
令和3年(2021年)	46	40
令和4年(2022年)	47	40
令和5年(2023年)	48	35
合計		1991

・卒業生数にはその期生以外の卒業生も含まれる。



# 編集後記

地球が誕生して46億年、そして南大阪看護専門学校が誕生して50年、比較することも出来ないほどのわずかな期間ではあります。しかし、人生100年時代の半分ではあり、それなりの期間だとも言えます。

開学50周年記念誌の発刊にあたり、法人本部の了承を得て編集委員会を持ったのが2021年11月です。その後、学校教職員で構成する小委員会を十数回開催し発刊に向けて進めて参りました。

法人会長、理事長、病院長、看護部長、元校長、教務部長、事務長、講師の皆さんから寄稿していただき、更に各年代の卒業生の皆さんからも暖かい懐かしい想いを寄せいただきました。ありがとうございました。

広い視野で医療の発展を目指し、看護師養成に情熱を注いでこられた故内藤景岳先生の熱い思いをかみしめながら、記念誌の編集を終えることが出来たことを嬉しく思います。

今回の記念誌編集にあたり、ご協力いただいた編集委員各位に感謝いたします。

記念誌編集委員長 小味渕智雄

## 南大阪看護専門学校50周年記念誌編集委員会

委員長 小味渕智雄

委 員 柿本祥太郎 / 新田正尚 / 渡邊美津江 / 藤本初音  
高岡 操 / 東浦龍至 / 鶴羽真侑

顧 問 飛田忠之

発行日 2023年 月 日

発行者 南大阪看護専門学校  
大阪府大阪市西成区南津守7丁目14番31号  
印刷所 株式会社ケーエスアイ





社会医療法人景岳会 南大阪看護専門学校